

2026年度版

研究シーズ集

SEEDS FOR RESEARCH & INNOVATION



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism

地域リサーチ&イノベーションセンター
R I C (Research & Innovation Center)

◆ 2026年度研究シーズ集発刊に際して



地域リサーチ&イノベーションセンター長
小橋 浩一

今春、本学第2期生がそれぞれの希望を胸に本学を巣立っていきました。新たな場所で、芸術文化と観光の双方の視点を生かし、地域に新たな活力を創出する専門職業人として活躍してくれるものと確信しています。

大学は、学生に対する「教育」、教員が自身の専門分野で行う「研究」に加え、大学全体で地域社会と連携し貢献することが役割とされています。そこで、本学では、開学当初から「地域リサーチ&イノベーションセンター（通称RIC）」を設置し、本学が持つ芸術文化・観光・経営の研究シーズを生かしながら、地域固有の様々な課題について地域の方々と共同でその解決に取り組んでいます。

昨年度は、課題解決型のプロジェクトである「RICプロジェクト」を、但馬3市2町との連携事業として15事業、民間団体等との連携事業として19事業、計34事業を実施しました。“コミュニケーションワークショップ”や“地域の魅力・観光情報等の発信事業”、“交通政策検討事業”等に加え、「北但大震災復興100年記念プロジェクト支援事業」にも取り組み、復興の歴史を紐解く演劇の上演とワークショップを実施しました。

また、プロジェクトに学生が参加できるスチューデントアシスタント制度（略称SA制度）により、教員の専門的な知見と併せて、学生ならではの視点からの取り組みも課題解決に向けてお役に立てるものと考えています。

この研究シーズ集は、専門性豊かで個性溢れる本学教員の研究分野、領域、具体的な研究成果の一端をまとめたものです。本冊子を参考にいただき、様々な課題の解決に向けてまずは本学にお声がけください。どうぞよろしくお願いいたします。



舞台芸術

平田	オリザ	-----04
木田	真理子	-----05
児玉	北斗	-----06
杉山	至	-----07
石井	路子	-----08
鎌田	麻衣子	-----09
河村	竜也	-----10
深澤	南土実	-----11
山内	健司	-----12
岡元	ひかる	-----13
島村	和秀	-----14
山谷	典子	-----15

教授 HIRATA ORIZA
(学長) 平田 オリザ



■キーワード 日本の劇作家、演出家、現代口語演劇理論の提唱者

劇作家、演出家、劇団「青年団」主宰、青森県立美術館館長 他
江原河畔劇場芸術総監督、戯曲の代表作に『東京ノート』、小説『幕が上がる』

■教育研究

- ・担当科目：コミュニケーション演習、芸術文化と観光、演劇入門
- ・RIC PROJECT：高校コミュニケーションWS、豊岡市ジュニアプレカレッジ

■専門領域・地域貢献（2025年度実績抜粋）

*著作（2025年度発刊）

- ・『寂しさへの処方箋 -芸術は社会的孤立を救うか-』集英社新書（2/16発刊）

*作品上演等（下記ほか7件）

- ・シアターオペラ『その星には音がない -時計仕掛けの宇宙-』脚本・演出（9/12～15 城崎国際アートセンター/豊岡演劇祭2025ディレクターズプログラム ほか）
- ・Performing Arts Project vol.6『もう風も吹かない』作・演出（11/29～12/7 芸術文化観光専門職大学 静思堂シアター）
- ・たじま児童劇団公演『十五少年・少女漂流記』作・演出（1/10～12 江原河畔劇場）
- ・『ちっちゃい姫とユレルン博士』作・演出（10/11、12 しかの心/BeSeTo演劇祭ほか）

*講演、配信、学会発表等（下記ほか55件）

- ・兵庫県市議会議長会総会基調講演（4/25 神鍋高原ブルーリッジホテル）
- ・経済同友会講演（5/23 日本工業倶楽部3Fホール）
- ・日本演劇学会発表（6/21,22 広島大学文学部棟）
- ・ベネッセ講演会「わかりあえないことから」（3/9 TKP新宿西口カンファレンスセンター）

*ワークショップ・講義等（下記ほか49件）

- ・愛知県立大学ワークショップ（4/26 愛知県長久手市）
- ・福島県立ふたば未来学園高等学校WS授業（7/10,11 福島県広野町）
- ・日本演劇学会ワークショップ（10/16 芸術文化観光専門職大学）
- ・都立富士高校附属中学校2年生対象ワークショップ授業（2/22、23 中野区）

*兵庫県豊岡市内実施

- ・県立日高高校ワークショップ授業（9/17）
- ・豊岡小学校モデル授業（10/22）
- ・中筋小学校モデル授業（11/13）
- ・港中学校モデル授業（1/21）
- ・豊岡高校アカデミア 講演+WS（2/7）

*小中学校コミュニケーション教育ワークショップ授業

- ・大阪府枚方市（5～3月 さだ小学校ほか12校）
- ・京都府与謝野町（5～2月 加悦小学校ほか4校）
- ・青森県佐井村コミュニケーション教育事業（12月 佐井小・中ほか）
- ・大分県佐伯市（2/5 市立蒲江湘南学園）

■アピールポイント

『東京ノート』第39回岸田國土戯曲賞受賞
『月の岬』で読売演劇大賞優秀演出家賞
『上野動物園再々々襲撃』読売演劇優秀作品賞
『その河をこえて、五月』で朝日舞台芸術賞グランプリ
『演劇1』『演劇2』が釜山国際映画祭でワールド・プレミア
『日本文学盛衰史』で第22回鶴屋南北戯曲賞受賞 他 受賞多数



講演風景



豊岡市「劇の学校」中高生対象演劇ワークショップ（提供：NPO法人ブラッツ）

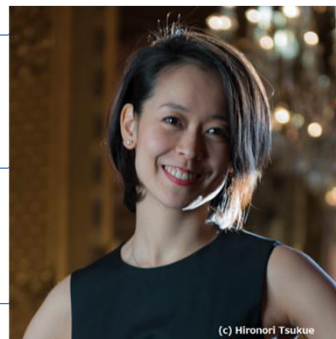


授業風景



授業風景

KIDA MARIKO
准教授 木田 真理子



キーワード：

荒川修作+マドリン・ギンズ、身体感覚、ダンス、空間と身体の相互作用、情動、記憶、マルチモーダリティ

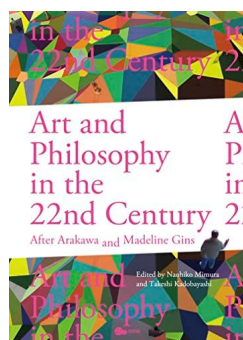
研究・著作：

- ・木田真理子「遊び心とともに変容する空間と身体—荒川修作とマドリン・ギンズの思索を手がかりにした実践から」『Core Ethics』21:89-100.2025.
- ・木田真理子「他なるものとの関係性のなかで生成されるダンス—身体と情動をめぐるダンサーのオートエスノグラフィ」『Core Ethics』21:77-87.2025.
- ・『22世紀の荒川修作+マドリン・ギンズ』フィルムアート社, 2019 (共著)
- ・『Art and Philosophy in the 22nd Century: After Arakawa and Madeline Gins』ratik, 2023 (共著)



共同研究・競争的資金等の研究課題：

- ・科研費（基盤研究C）代表「せめぎ合いから立ち上がる身体の人類学研究—ダンス作品の創作現場から」2023年4月～2027年3月
- ・関西大学戦略的研究拠点形成支援経費基盤形成型 分担「荒川修作+マドリン・ギンズ「手続き型建築」に関する学際的総合研究」2025年4月～2026年3月
- ・関西大学研究拠点形成支援経費 分担「空間と身体感覚の相互作用にもとづく空間デザインの研究 — 荒川修作+マドリン・ギンズ「手続き型建築」の形態を探る」2023年4月～2025年3月



地域貢献・社会貢献：

- ・2019年～2022年 中高生のための「劇場の学校」プロジェクト舞踊コース講師（公益財団法人 京都市音楽芸術文化振興財団/ ロームシアター京都）
- ・2020年 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン（Save the Children Japan）「日本/子どもの虐待防止」メッセージ発信
- ・2021年「箕面船場における文化芸術国際交流のまちづくりシンポジウム」パネリスト（大阪府箕面市、大阪大学外国語学部、箕面市メイプル文化財団、箕面市国際交流協会）
- ・2021年アートについて考えるドキュメンタリー映画「アートなんか知らない！」インタビュー出演（山岡信貴監督、リタピクチャル）
- ・2023年「パフォーマンスキッズ・トーキョー」プロジェクト、『〇これなんだ』空間演出アドバイザー（特定非営利活動法人 芸術家と子どもたち、公益財団法人 東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京、公益財団法人 新宿未来創造財団）
- ・2024年 山梨県立美術館VR展示企画シリーズ『LABONCHI』第2弾「まだ解けていないほうの山梨県議」美術家・雨宮庸介VR展示作品、振付アドバイザー（山梨県立美術館）
- ・2025年「インターナショナル・ダンス・ワークショップ」ゲスト講師（公益社団法人 日本女子体育連盟（JAPew））
- ・2025年「実務家教員による授業 事例1」（p.3）専門職大学等制度紹介パンフレット2025、執筆協力（文部科学省）



KODAMA HOKUTO
准教授 児玉 北斗



■ キーワード ダンス、振付、舞踊美学、パフォーマンス研究
身体コミュニケーションワークショップやダンス作品の創作

■ 教育研究

- ・担当科目：専門演習、パフォーミングアーツ概論、身体コミュニケーション実習、ダンスワークショップ実習、舞台芸術実習、身体表現論、舞台芸術論
- ・本学委嘱委員：入試委員会、芸術文化専攻長

■ 専門領域

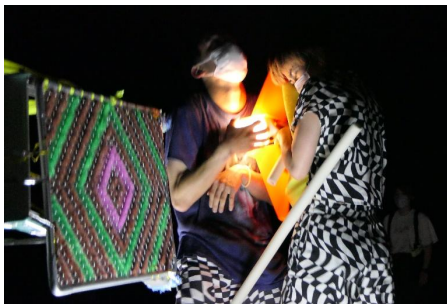
ダンス作品を「振付」という観点から実践的／理論的に考察することを専門とし、振付家として『Pure Core』(2020年)『Wound and Ground』(2022-2026年)などのコンテンポラリーダンス作品を発表している他、舞踊美学の領域で「ダンス作品の存在論」をテーマに研究者としても活動している。

2021～26年度 Dance Box「国内ダンス留学@神戸」講師（西洋舞踊史）2022年度 愛媛大学文学部 非常勤講師（芸術学特講）、京都芸術大学舞台芸術センター・共同研究プロジェクト「老いをめぐるダンスドラマツルギー」（研究代表者：中島奈那子）研究メンバーなど

論文「2000年以降のダンス研究におけるネルソン・グッドマンのノーテーション理論——争点としてのオートグラフィック／アログラフィク——」『第71回美学会全国大会 若手研究者フォーラム発表報告集』美学会、2021年。
「行為としてのダンス作品の同一性と変化 ——分析美学的存在論の観点から——」美学会、『美学』、第76巻1号、pp.37-48、2025年。

「コレオグラフィー、ダンスを書くことの系譜学」、鍋島弘治朗他編『メタファー研究3』、ひつじ書房、2026年。

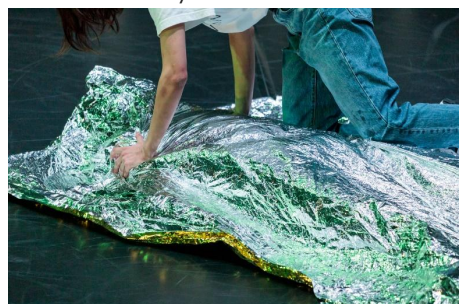
・研究の実際



『Wound and Ground』(2022) Photo: Hanabi Takemiya



『Pure Core』(2020) Photo: Kim Sajik



■ アピールポイント

2001年より、アルバータバレエ、レ・グランバレエ・カナディアン、ヨーテボリオペラ・ダンスカンパニー、スウェーデン王立バレエなどで国際的に活動。マッツ・エック、アレクサンダー・エックマン、ヴィム・ヴァンデケースなど世界的な振付家の創作にて主要な役を務めた。JAPON dance projectメンバーとして2014年と2016年の新国立劇場主催公演にて振付・出演、また2017年にトーキョーワンダーサイト本郷でソロ公演『Trace(s)』、2020年『Pure Core』（THEATRE E9 KYOTO）、2026年『Wound and Ground』（CLUB METRO）を発表するなど、主体・身体・権力の連関について、ダンサーとしての当事者的な問題意識を基盤とした作品を制作している。2018年ストックホルム芸術大学修了、MFA in Choreography。2026年立命館大学大学院先端総合学術研究科修了、博士（学術）。

SUGIYAMA ITARU

准教授 杉山 至

01



■キーワード 舞台芸術、舞台美術、セノグラフィー
セノグラフィーを活用したワークショップやパフォーマンスの開催、
文化資源や地域伝承等を生かした芸術の視点からの地域活性化、
コミュニケーション・デザインによる地域のリブランディング

■教育研究

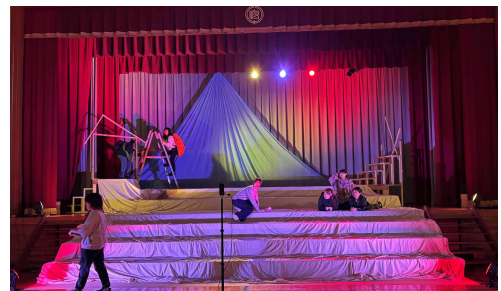
- ・担当科目：コミュニケーション演習、舞台芸術実習A～D、舞台芸術基礎実習、舞台芸術入門、空間デザイン入門、舞台美術論、劇場文化と舞台技術
- ・学内委嘱委員：劇場運営委員会

・専門領域

- 1.国内外での舞台芸術作品におけるセノグラフィー（舞台美術）デザイン。
- 2.セノグラフィー（舞台美術とランドスケープの複合）ワークショップの開催と文化資源を活用したパフォーマンスやイベント等のデザイン・プランニング。
- 3.地域に残存する舞台芸術に関わる文化的文脈を持つ事柄のリサーチと作品づくり。



第60回紀伊國屋演劇賞・個人賞受賞作品「存在証明」舞台模型



「星のクライマー〜植村直己」プロジェクト 練習風景



あさご芸術の森「光と風のページェント」ダンスイベント風景



神戸文化ホール開館50周年記念公演「流々転々」舞台練習風景

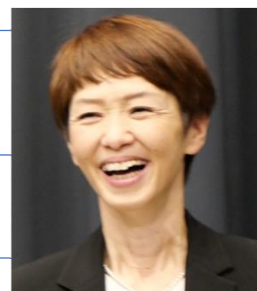
■地域貢献・社会貢献

RIC PROJECT：「あさご芸術の森美術館「風と光のページェント」事業、「諸寄地区における観光産業活性化」事業、「星のクライマー〜植村直己」プロジェクト演劇創作事業。
神戸文化ホール50周年記念事業公演「流々転々」舞台美術担当
尼崎ピッコロシアター主催公演「リア王」舞台美術担当
豊田市文化振興財団・演劇ファクトリー事業でワークショップ開催。

■アピールポイント

- 1.第60回紀伊國屋演劇賞・個人賞受賞 名取事務所「砂漠のノーマ・ジーン」俳優座「存在証明」舞台美術にて。
- 2.2025年度地域との連携事業での実績
 - ・RIC事業 あさご芸術の森美術館「光と風のページェント2025」に学生と共にアート作品・イベントデザインで参加。
 - ・RIC事業 「星のクライマー〜植村直己」プロジェクト演劇創作事業にて学生と小学校出張公演開催

講師 ISHII MICHIKO
石井 路子



■キーワード 演劇教育、表現教育、コミュニティダンス

教員への表現教育ワークショップ、高等学校への表現ワークショップ（実習）

■教育研究

- ・担当科目：コミュニケーション演習、芸術文化・観光プロジェクト実習、演劇ワークショップ実習、舞台芸術基礎実習、舞台芸術実習、演劇教育入門、演劇教育論
- ・本学委嘱委員：学生生活委員会委員、R&Iセンター委員
- ・RIC PROJECT：高校コミュニケーションWS、明延アートプロジェクト

■専門領域

- ・学校教育における表現教育の実践・カリキュラム研究
- ・表現教育科目履修生の実習として、但馬地域高等学校への表現ワークショップ授業の実施
- ・身体表現・ボディワーク、セルフ・ナラティブ作品創作、高校演劇作品創作
- ・コミュニティダンス：但馬地域フラッシュモブ企画



高校生が生きやすくなるための演劇教育
2017/5 いしいみちこ(著)



追手門学院高校表現コミュニケーションコース



但馬地域フラッシュモブ企画 但馬空港促進事業



一円電車祭りアートプロジェクト

■地域貢献・社会貢献



出前 コミュニティダンス

■アピールポイント

高校教諭として約20年ほど表現教育を実践してまいりました。目的は、所属コミュニティにおいて人と人をつなぐことのできる人材を育てること。芸術文化は娯楽をイメージされることが多いですが、芸術文化、表現は、本来人間にとってなくてはならないもの。芸術文化の力を知り、地域や社会のためにその力を駆使できる人を育ててまいります。互いに影響し合っている心と身体の関係について知ることは、自分自身と向き合うことです。そして、身体を通して他者を想像することが、他者や人間を理解することにつながります。自身を考えていく機会を提供してまいりたいと考えています。

講師 KAMATA MAIKO
鎌田 麻衣子 m_kamata@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 演劇教育、応用演劇、インプロ（即興演劇）、
演技ワークショップ、ファシリテーション、コミュニケーション

■ 教育研究

- ・ 担当科目：知と表現のデザイン1、演劇ワークショップ実習B（1年）
舞台芸術実習AB、演劇教育入門、演劇ワークショップ実習D（2年）
演劇教育論、舞台芸術実習CD（3年）
- ・ 研究/著作：「役を演じることによる自己認識と社会認識の変容プロセス—高校生の「自己の動揺」に着目した
青年期の演劇教育」(博士論文・2022)
『インプロ教育の探究—学校教育とインプロの二項対立を超えて』(新曜社、共著・2024)
- ・ 本学委嘱委員：広報委員、ハラスメント対策委員

■ 専門領域

〈経歴〉

玉川大学文学部芸術学科芸術文化コースを卒業後、神奈川の県立高校（2008～2021）、東京の私立和光高校（2015～2024）において「演劇」の授業の非常勤講師を務める。2011年より東京学芸大学大学院修士課程に進学し2014年3月修了、修士（教育学）。2016年より博士課程に進学し2022年3月修了、博士（教育学）。学位取得後、東京学芸大学教育学部特任講師（2022）、東京学芸大学「芸術表現実践論」非常勤講師（2023）、群馬大学医学部「医系の人間学」非常勤講師（2021～）、日本女子大学人間社会学部社会福祉学科「コミュニケーション論」非常勤講師（2024～）。豊岡総合高校「演劇表現」特別非常勤講師（2026年4月～）2025年4月より現職。

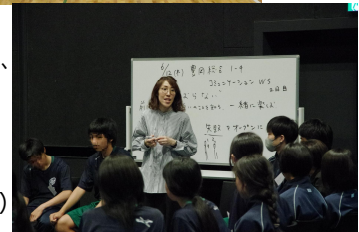
〈研究領域〉

1. 演劇教育実践・研究
 - 1) 高等学校の授業「演劇」の教育実践（～2024）
 - 2) 教員養成系大学における演劇教育、演劇ワークショップの教育実践及び研究（2022～2023）
 - 3) 医療・福祉系大学/学部における「コミュニケーション」授業の実践及び研究（2021～）
 - 4) 演劇教育の理論研究
2. ワークショップ実践・研究
 - 1) 演劇ワークショップ、インプロワークショップの実践（2011～）
 - 2) ワークショップ及びファシリテーターの理論及び実践研究
3. 応用演劇及び演劇の実践・研究
 - 1) 様々な分野で行われる応用演劇の理論及び実践研究
 - 2) 演技及び俳優養成の歴史・理論研究



■ 地域貢献・社会貢献

- ・ RIC高校ワークショップ事業コーディネーター（2026年～）、ファシリテーター（豊岡、豊岡総合、日高看護、和田山、近大豊岡等、2025年4月～）
- ・ RIC但馬地域自治体職員向け政策づくり研修講師（2025年7、8月実施）
- ・ 日高高校教員研修講師（2025年8月実施）
- ・ 日高高校看護科専攻科生向け「人間関係論」講演（2025年10月実施）
- ・ 小田原市三の丸ホール「劇場留学」事業評価委員（2025年5月～2026年5月）
- ・ 日本演劇学会分科会演劇と教育研究会運営委員（2024年7月～）



■ アピールポイント

これまでは主に教育現場で、演劇に初めて出会う生徒・学生を対象に演劇教育の実践をしてきました。これからは教育現場にかかわらず、地域社会の中でも、様々なバックグラウンドを持つ人々と出会い、演劇あるいは身体的な表現活動を通じた語り合いの場、学び合いの場を創造できたらいいなと考えております。どのような現場にも出向きます。但馬地域の多くの人と出会いたいと考えております。

KAWAMURA TATSUYA

講師 河村 竜也 t_kawamura@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード 演劇、俳優、舞台芸術、フェスティバル、プロデュース、アートマネジメント、国際共同制作、劇場文化

■ 教育研究

- ・担当科目：芸術文化・観光プロジェクト実習 1～4、舞台芸術基礎実習、舞台芸術実習A～D、舞台芸術入門、劇場文化と舞台技術
- ・本学委嘱委員：実習支援センター委員、劇場運営委員会委員

・研究事例

◆ 舞台

- ・【出演】「東京ノート」：青年団、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「日本文学盛衰史」：青年団、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「砂と兵隊」：青年団国際交流プロジェクト（日仏）、作・演出：平田オリザ
- ・【出演】「MONTAGNE/山」：日仏共同制作 作・演出：トマ・キヤルデ
- ・【出演・プロデュース】「珈琲法要」：ホエイ、TGR札幌劇場祭大賞受賞
- ・【出演・プロデュース】「郷愁の丘ロマンピア」：ホエイ、第63回岸田國土戯曲賞最終候補 他多数

◆ 映画

- ・【出演】「歓待」、「東京人間喜劇」、「SHARING」



「珈琲法要」 ©Nagare Tanaka

舞台 【出演・プロデュース】ホエイ「珈琲法要」

舞台 【出演・プロデュース】ホエイ「郷愁の丘ロマンピア」



©igaki photo studio

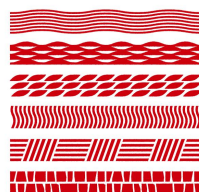
舞台 【出演】「MONTAGNE/山」：日仏共同制作



「ジェファソンの東」

映画「歓待」出演 深田晃司監督

映画「ジェファソンの東」出演 深田晃司監督



Toyooka Theater Festival
豊岡演劇祭

豊岡演劇祭 プロデュース

■ 地域貢献・社会貢献

豊岡演劇祭のプロデュース、KDDIとの高精度GNSS測位による音声ARを活用した音声ARオーディオガイド造成事業、新規就農希望者に訴求するブランディングムービー作成業務、JR西日本観光列車「うみやまむすび」演劇列車を活用した文化観光コンテンツの造成事業、JICA発展途上国向け訪日研修における協力事業

■ アピールポイント

豊岡演劇祭のプロデュース業務、舞台芸術作品の制作（国際共同制作含む）業務の実績

講師

FUKASAWA NATSUMI

深澤 南土実



■キーワード

身体表現、バレエ・ダンスの歴史や創作の背景、パフォーミングアーツとテクノロジー

■教育研究

・担当科目

パフォーミングアーツ概論、舞台芸術実践論、ダンスワークショップ実習D、身体コミュニケーション実習、舞台芸術実習A～D、芸術文化・観光プロジェクト実習1～4

・本学委嘱委員

学生生活委員、ハラスメント対策委員

研究・教育などの実績 (主に2020年以降)

《振付・ダンス》

・東京藝術大学 AI Beethoven Online concert 《Beethoven Complex》(2020)

・東京藝術大学 Art of Body Motion project 《The Flower of Fate》(2022)

《単著》

『バレエ・デ・シャンゼリゼ：第二次世界大戦後フランス・バレエの出発』法政大学出版局, 2020

《論文》

・鈴木範之、阪まどか、宮崎真利子、深澤南土実「明治初期のピアノ導入の経緯を探る—幼児教育、体操教育、音楽教育、楽器産業の視点から—」『教職実践研究』第7号, pp.17-33, 2023

・Shuntaro Yoshida, Natsumi Fukasawa "How Artificial Intelligence Can Shape Choreography: The Significance of Techno-Performance" Performance Paradigm 17, pp.67-86, 2022

《研究ノート》

・深澤南土実「舞台上のダンスと映像—映像とのインタラクションを重視したダンス」『芸術文化観光学研究』第3号, pp.167-173, 2024.

《口頭発表》

・Natsumi Fukasawa "Practical Integration of Dance and Digital Technology in Japan." International online conference as part of the Priority 2030 strategic academic leadership program "DIGITAL-TRANSFORMATION VS VAGANOVA'S LEGACY", 2022

・吉田駿太郎、深澤南土実「コロナ禍の日本における人工知能を用いた振付作品の創作過程とテクパフォーマンスの意義：《ベートーヴェン・コンプレックス》を事例に」舞踊学会第25回定例研究会, 2022

《展示・企画》

・兵庫県立芸術文化センター「薄井憲二バレエ・コレクション」第35回企画展「バレエ・デ・シャンゼリゼ～知られざる伝説のバレエ団～」(2025)

■社会貢献活動

2024年以降

・京都精華大学 身体文化演習 ゲスト講師

・大阪公立大学「未来の博士育成ラボラトリー」デジタルアート&ダンスワークショップ講師

・若手研究者による教養講座『文化・芸術ビギナーズラボ』講師

「近現代バレエとバリーバレエ・リュスとバレエ・デ・シャンゼリゼ」(東りいたみホール)

・芸術文化観光専門職大学 パフォーミング・ライブラリー企画トークイベント

「語り継がれる踊り：黒沢美香とは誰だったのか？」企画・司会

・CAT教養講座「はじめてのコンテンポラリーダンス」講師

・芸術文化観光専門職大学 地域連携プロジェクト (RIC PROJECT)

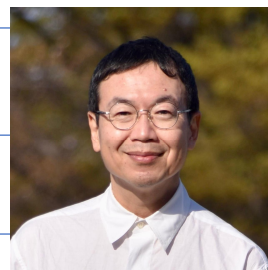
「八代小学校の小規模特認校による地域活性化事業」ワークショップ講師



単著『バレエ・デ・シャンゼリゼ：第二次世界大戦後フランス・バレエの出発』法政大学出版局

YAMAUCHI KENJI

講師 山内 健司 k-yamauchi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■キーワード 俳優、演技、他者理解

■教育研究

- ・担当科目：コミュニケーション演習、演劇ワークショップ実習 A・C、演技論、舞台芸術基礎実習、舞台芸術実習 A・B・C・D
- ・本学委嘱委員：広報委員会

■専門領域

1. 舞台芸術の新しいかたちを探る

～表現の先端を伸ばす～

演劇を作ること・見ることに、これまでと同じように時間やお金をかけることが困難な時代です。私たちに必要な舞台芸術の新しい形を、しなやかに探ります。

2. 人が集うこと、それ自体の価値を大切に

～豊かさを誰でも味わえるようにする～

人のお話を聞くことは、何か情報を得るだけではなく、その人がどんな人であるか、が常に同時に伝わります。コロナ期を経て私たちが知るその豊かさを捕まえます。

3. 他者理解としての演技

～演技の言葉を整理する～

古今東西の演技をめぐる言葉の蓄積には、他者理解の知恵が詰まっています。今の私たちを豊かにするために、知へのアクセスをよくします。



高校コミュニケーションWS



平成二十二年度文化庁文化交流使として全編仏語一人芝居『舌切り雀』をヨーロッパ各地の小学校で単身上演

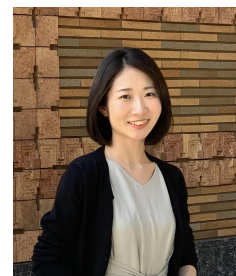
■地域貢献・社会貢献

- ・RIC事業：但馬地域の全高校にて、コミュニケーション・ワークショップを実施。
- ・国内各地で「しゃべり言葉を調べるワークショップ」「聞き演じワークショップ」の実施。
- ・一人芝居、二人芝居の上演などで演劇作品を身近に。

■アピールポイント

高校の探求学習など、チームで知恵を集める活動は、安心できるチーム作りという土台が大切です。そこに自覚的に取り組むワークショッププログラムを実施しています。「他者へのリスペクト」「自分自身へのリスペクト」を俳優の演技の視点から獲得していくプログラムです。

OKAMOTO HIKARU
助教 岡元 ひかる



■ キーワード コンテンポラリーダンスおよび舞踏（暗黒舞踏）の稽古、振付における言語使用、ダンスの空間論

■ 教育研究

担当科目 身体表現論、舞台芸術実習、海外実習（ドイツ）、観光プロジェクト実習
身体コミュニケーション実習、ダンスワークショップ実習

論文

- * 「諸可能性が踊られる空間－岩渕貞太のメソッドに着目して－」『芸術文化観光学研究』第3巻、2024年
- * 「土方巽の舞踏における「危機」の実践と思想」博士論文、神戸大学大学院、2022年
- * 「舞踏訓練「虫の歩行」における身体経験の再検討－土方巽の弟子・正朔の実践に注目して－」『舞踊學』第42号、2019年
- * 「GAGAにおける「慣習の変更」の具体的実践：動きの方向性・身体の方節化を中心に」『神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要』第11巻第2号、2018年（共著・筆頭著者）

書評、公演評

- * 「TARB書評：宇野邦一『土方巽 衰弱体の思想』」Tokyo Academic Review of Books ウェブサイト、2022年
- * 「脱文脈化の手前で マルコ・ダ・シウヴァ・フェレイラ『CARCAÇA』公演評」、『SPIN-OFF』、2025年
- * 「クラウド・ゲイト・ダンスシアター×真鍋大度『WAVES』公演評生きられる波、観測される粒」、『SPIN-OFF』、2026年
- * 「国内ダンス留学@神戸11期 Newcomer/Showcase#3 Solo Dance Artist 最終成果上演」、NPO法人DANCE BOX公式ホームページ、2026年

口頭発表等

- * 「土方巽と言葉：書くこと、語ること、踊ること」京都芸術センター、一般社団法人ダンスアンドエンヴァイロメント主催「つくるための書くこと」講座・プレイベント ミニレクチャー、2024年
- * 「ドラマトゥルク・ミーティング」（企画代表者：中島那奈子）パネリスト・WSファシリテーター、2024年
- * アートエリアB1 開館15周年記念 鉄道芸術祭vol.0～10「リ・クリエーション2 ～展覧会の記録からはじまる未来～」クロージングイベントパネリスト、2024年
- * 「従順な身体からの「解放」はいかに目指されたのかー暗黒舞踏の事例に着目してー」神戸大学国際文化学研究科地域連携センター主催セミナー/神戸大学国際文化学推進インスティテュート共催「戦後日本における身体の表象－「解放」の出発点と現在」、2023年
- * “Body without Organs” and time consciousness in dancing Butoh –A case study of Yamamoto Moe’s dance in “Wings of Castle” (1978), Dance Studies Association Annual Conference 2022

■ 社会貢献・芸術活動

- * 「ドラマトゥルク・ミーティング プレイベント ピル・ハンセン『Performance Generating Systems in Dance: Dramaturgy, Psychology, and Performativity』を読む」企画・ファシリテーター、2024年
- * NPO法人DANCE BOX「ダンス国内留学@神戸9期」講師（日本舞踊史概論）、2023年

SHIMAMURA KAZUhide
 助教 島村 和秀 shimamura@stdat.at-hyogo.ac.jp

■キーワード 劇作、舞台演出、コミュニケーション・ワークショップ

■教育研究

- ・担当科目：芸術文化・観光プロジェクト実習、演劇ワークショップ実習、舞台芸術基礎実習
- ・本学委嘱委員：入試委員会
- ・RIC PROJECT:高校コミュニケーションWS



■専門領域

- 1.人間の矛盾する心理や多層的な感情を台詞として構築する方法論の研究
- 2.ストーリー中心からナラティブ中心の演劇へ転換する演出手法の研究
- 3.抽象と具体の往還によるイメージ共有と協働創作の研究

・研究事例

【演出】（他多数）

『ノーマンズランド』オクシモロン シアター クラブ製作
 『インポッシブル・ギャグ』WIP公演
 （小野彩加、中澤陽共同演出）
 松原俊太郎 / オクシモロン シアター クラブ /
 小野彩加 中澤陽 スペースノットブランク共同製作

【作・演出】（他多数）

『そんなハナシCOLORS』盆地と里の芸術祭 上演作品
 『あるく鳥の白いこワ』
 四国学院大学アーティスト・イン・レジデンス・プログラムvol.23
 『ドキドキしていた』情熱のフラミング製作
 『ちょっとまって』情熱のフラミング製作

【ワークショップ】（他多数）

TOONワークショップ・アソート・プログラム
 （東温市移住定住促進協議会主催）
 「演技を自分のものにする」ためのワークショップ
 （オクシモロン シアター クラブ主催）



『ドキドキしていた』場面写真



TOONワークショップ・アソート・プログラム の様子

■地域貢献・社会貢献

公益財団法人 調布市文化・コミュニティ振興財団 製作『シンドバッドの冒険 ～調布一夜ものがたり～』
 を東京都・調布市内の児童館で巡回上演（24～26年）

■アピールポイント

舞台芸術は「共生」を考えるための芸術であると捉え、舞台創作活動を続けてきました。矛盾や複雑で多層的な感情、人間同士あるいは人と物との関係性を、多くの人に開かれた舞台表現へと転換する研究と実践を行っています。第7回せんがわ演劇コンクール グランプリ、脚本賞 / 演劇人コンクール2020 最終審査ノミネート。

助教 YAMAYA NORIKO
山谷 典子 yamaya@stdat.at-hyogo.ac.jp



■キーワード

劇作家、俳優、演劇、コミュニケーションWS、子どものためのWS

■教育研究

- ・担当科目：演劇ワークショップ実習A、C、舞台芸術実習A～D、芸術文化・観光プロジェクト実習1～4、舞台芸術基礎実習
- ・本学委嘱委員：ハラスメント対策委員、キャリアサポートセンター委員

研究事例（主に2020年以降）

演劇集団Ring-Bong（脚本）「さなぎになりたい子どもたち」「交差点のプテラドン」「シングルファザーになりまして。」
Pカンパニー公演（脚本）「オセロの横顔」
劇団銅鑼公演（脚本）「チムドンドン」「ポニーテールの功罪～だかし屋のおっちゃんはおばちゃんなのか？～」
イツフォーリーズ、長岡リリック共同事業子どもミュージカル（脚本、歌詞）「君の隣に名探偵～もしくは見えないお友達」
親子のための音楽朗読劇（脚本、歌詞）「くじらのこえ なみのこえ」
NHKFM青春アドベンチャー（脚本）「黒い瞳のボヘミアン」



「くじらのこえ なみのこえ」



「さなぎになりたい子どもたち」



「シングルファザーになりまして。」

■専門領域

1. 演劇関連

- （1）WSプログラム開発：表現ワークショップ、芸術×他業種ワークショップのプログラム開発
- （2）芸術×観光：芸術と観光の融合を目的とする創作（市民ミュージカル執筆など）やWSの開発
- （3）演劇教育：演劇教育研究、但馬地域における演劇教育の普及と実施内容の研究

2. 地域連携

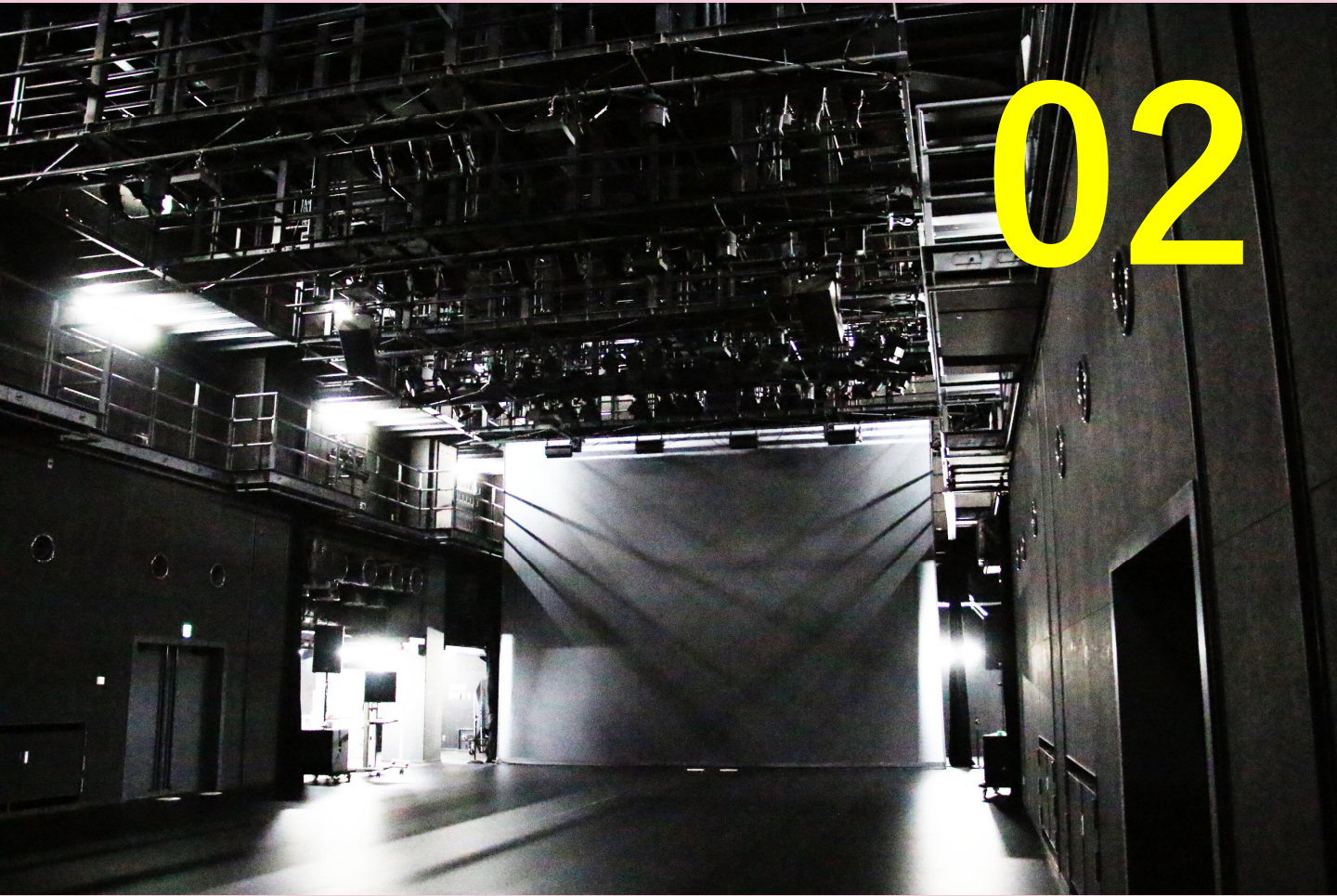
- （1）創作活動：多角的な表現活動（WSや創作を起点とした）の場と機会の創出
- （2）地域とのマッチング：教育機関や地方自治体、企業との共同イベントやWS

■地域貢献・社会貢献

- ・RIC PROJECT：但馬地区全域・高大連携コミュニケーションWS、
- ・宮崎県都城市 市民ミュージカル「KAPPA」執筆（2027年3月上演予定）
- ・近畿総合文化祭2026 脚本
- ・高校演劇審査員

■アピールポイント

高校時代は進学校に在学し新聞記者志望でしたが、演劇の魅力に触れて劇団文学座に入り、文学座時代から小学校から高校までのワークショップ事業に多く関わってきました。社会が抱える問題を分かりやすく書く筆致と定評があり、授業でも演劇を通して社会を考える時間を作ってきました。



アートマネジメント

古賀	弥生	-----	18
今井	祐子	-----	19
大野	はな恵	-----	20
尾西	教彰	-----	21
李	知映	-----	22
井原	麗奈	-----	23
近藤	のぞみ	-----	24
寺田	卓矢	-----	25

教授 (副学長) KOGA YAYOI
古賀 弥生 yayoikoga@stdat.at-hyogo.ac.jp



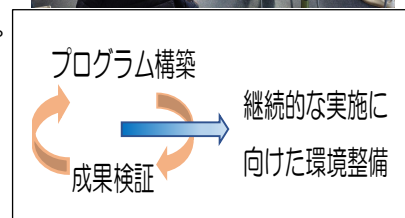
■キーワード 文化政策学、アートマネジメント
社会包摂、文化的処方に資する芸術文化活動のコーディネート。
文化ホール等の事業企画や運営に対する地域人材の育成。
自治体の文化振興条例、計画、ビジョン等の策定支援。

■教育研究

- ・担当科目：文化政策概論（1年）地域コミュニティ論・地域創生論・地域創生実習（2年）
文化政策実習・専門演習（3年）総合演習（4年）
- ・研究・著作：文化芸術と社会包摂 多様な主体による分野の越境（単著『都市問題』（114）73-81 2023/08）
文化政策の潮流と社会包摂型文化芸術事業の実践～実践活動と政策形成の架橋に向けて～
（単著 九州産業大学地域共創学部『地域共創学会誌』第8号2022/03）
芸術文化と地域づくり～アートで人とまちをいあわせに～（単著 九州大学出版会2020/03）
- ・大学運営実績：副学長兼学部長

■専門領域

1. 社会包摂型地域社会の構築への芸術文化による関与のあり方に関する研究
 - 1) パーキンソン病患者のダンス活動の実践と成果検証
 - 2) 社会的処方と芸術文化活動の連関に関する実践活動
 - 3) 演劇ワークショップ等による子育て支援、高齢者支援活動のプログラム構築
2. アートマネジメント人材養成
文化施設等における人材養成講座の企画立案に関する助言、講師等。



■地域貢献・社会貢献

- （2025年度実績）
- ・福岡県春日市ふれあい文化センター「アートマネジメント人材養成講座」企画立案、講師 ほか
 - ・兵庫県立美術館HART TALK 館長といっしょ！Vol.20登壇 ほか
・「豊岡でパーキンソン病と暮らす方の交流会」開催（豊岡保健所、一般社団法人ダンストーク、一般社団法人パラカダンスとの連携）
 - ・公益財団法人医療文化経済グローバル研究所（養父市）主任研究員
 - ・兵庫県第4期芸術文化振興ビジョン検討委員会委員、兵庫県立ピッコロ劇団企画運営委員会委員、公立豊岡病院倫理委員会委員、豊岡市文化財保存活用地域計画協議会委員、福岡県アーツカウンシル設立準備委員会委員、一般社団法人豊岡コミュニティシネマ理事

■アピールポイント

芸術文化と地域をつなぐため、実践と研究を両輪として福岡で20年間活動してきました。2022年4月、本学に着任。但馬でも、元行政職員、アートNPO代表の経験から、芸術文化による地域活性化、芸術文化と地域をつなぐ人材養成などのお手伝いをしたいと思っています。乳幼児から高齢者まで、すべての人に芸術文化の力を届けます。

教授 IMAI YUKO
今井 祐子 y-imai@stdat.at-hyogo.ac.jp



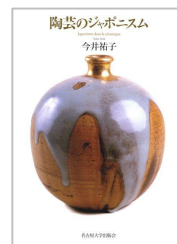
02

■キーワード

陶磁史、近代美術史、ジャポニズム、日仏文化交流史
セーヴル磁器、万国博覧会、アートマネジメント

■教育研究

- ・担当科目：芸術学（1年）、美術史、世界を知るA、劇場プロデュース実習、知と表現のデザイン2（2年）、専門演習（3年）、総合演習（4年）
- ・著作：『陶芸のジャポニズム』（名古屋大学出版会、2016年）
Research on Sèvres New Hard-Paste Porcelain, private edition
(Report of the Research Subsidized by the Japan Society for the Promotion of Science), 2022.
- ・翻訳書：『セーヴル磁器技術大全』（中央公論美術出版、2026年）
- ・大学委嘱委員：学術情報委員会委員



■専門領域

- ・文化財としての陶磁調査
- ・2018年、セーヴル陶磁都市でセーヴル磁器に関する共同研究を実施

■競争的資金・共同研究等の研究課題

- ・「ピングと蜷川式胤を巡る陶芸のジャポニズムに関する研究」（2005～2007年度）
- ・「近代フランスにおける陶磁研究とシャンフルーリ」（2008～2011年度）
- ・「19世紀セーヴル国立磁器製作所における技術開発と東洋陶磁」（2012～2017年度）
- ・共同研究「セーヴルの新硬質磁器に関する研究」（2017～2019年度）
- ・「セーヴルの新硬質磁器と盛絵具装飾」（2021～2026年度）



カンペール美術館での作品
調査風景 2025年3月

■講演会・セミナー等のテーマ

- ・「動き出した陶芸のジャポニズム：フランスの事例を中心に」（2009年7月、京都国立博物館夏期講座）
- ・「印象派陶磁器をその周辺」（2014年7月、岐阜県現代陶芸美術館）
- ・「陶芸のジャポニズムとセーヴル」（2017年6月、近代国際陶磁研究会）
- ・「陶芸のジャポニズムにおける北斎受容」（2017年11月、国立西洋美術館）
- ・「陶芸のジャポニズム：蜷川式胤『観古図説 陶器之部』の影響」（2018年2月、ジャポニズム学会）
- ・「フランスにおけるジャポニズムと陶磁器」（2022年7月、アリアンス・フランセーズ愛知）
- ・「フランス陶磁器の世界」（2022年8月、早稲田大学エクステンションセンター）
- ・「セーヴルの新硬質磁器と青磁釉」（2024年10月、セーヴル陶磁美術館友の会）

■地域貢献・社会貢献

- ・福井県陶芸館・越前古窯博物館展示資料審査委員（2016年6月～現在）
- ・越前焼・陶芸村基本構想策定検討委員会委員（2025年～現在）

■アピールポイント

福井大学での21年間の勤務を経て、2025年4月に本学に着任しました。福井大学では、国際交流会館、県立図書館、福井市中央公園等で行う、地域と連携した学生主催の文化イベントの企画・運営に関する指導を経験しました。但馬では、美術工芸品を活用した地域活性化に関わる仕事のお手伝いがしたいです。

准教授 ONO HANAE
大野 はな恵



■キーワード 文化政策、音楽教育、社会包摂、芸術文化の評価、地域の担い手育成

- ・ 舞台芸術を通じた教育・福祉分野との連携
- ・ 芸術文化事業の評価指標づくりと効果測定
- ・ 地域の担い手支援と、子ども・若者の表現・参画の機会づくり

■教育研究

・担当科目：アートマネジメント概論、文化政策概論、舞台芸術論
音楽文化論、ドイツ実習、劇場プロデュース実習、専門演習、卒業研究

・主な研究テーマ

舞台芸術を通じた教育・社会包摂の可能性に関する研究
芸術文化事業の評価手法と政策活用に関する実践的研究
英国ロイヤル・オペラ・ハウスやスコットランドの文化政策に関する比較調査
地域芸術祭におけるアーティストと地域の関係性に関する研究

・主な著作・論文

『オペラ／音楽劇研究の最前線―共鳴する人と社会』（水声社2026）共著
「劇場が切り拓く学校との文化的対話：子どもたちのアクセス拡大に向けて」
ロームシアター京都紀要（2025）

「文化支援事業における連携と多層的価値創出：
チャーム・ケア・コーポレーション『アートギャラリーホーム』の事例から」
メセナアソシエイトレポート（2025）

『オペラ／音楽劇研究の現在』（水声社2021）共著
「子どもと共につくる劇場のかたち：『子どもの参画』はいかにして展開されるか」
ロームシアター京都 リサーチプログラム紀要（2019）

・研究資金

科研費「オペラ劇場の教育普及活動の制度的定着に向けて」(2026-2030)



『オペラ/音楽劇研究の最前線』共著



『オペラ/音楽劇研究の現在』共著

■地域貢献・社会貢献

目黒区文化ホールおよび目黒区美術館 指定管理者運営評価委員（副座長）
（2024-）

養父市立図書館協議会委員（2026-）

文化庁「日本博2.0」事業 外部評価・助言（2024-）

東京大学先端科学技術研究センターとの連携による

人材育成・ソーシャルイノベーション研究（2023-）

子ども・若者向け芸術体験事業「Creating Original Opera」企画・講師（2017-）



子ども向け音楽プログラムの企画・実施

■アピールポイント

劇場や公共ホール、福祉施設、教育機関、自治体と連携しながら、**文化事業の評価設計、子ども・若者向け芸術プログラムの企画、海外事例調査**を柱に研究・実践を進めています。現場と制度の間をつなぎ、文化事業の意義や影響を丁寧に可視化することで、持続可能な政策設計や担い手育成に貢献することを目指しています。

ONISHI NORIAKI
准教授 尾西 教彰

n_onishi@stdat.at-hyogo.ac.jp



02

■キーワード アートマネジメント、文化施設、演劇学、芸能史

劇場・文化ホールの事業企画・運営、舞台芸術人材の養成、地域演劇・芸能の振興

■教育研究

- ・担当科目：文化施設運営論（2年）、専門演習（3年）、総合演習（4年）
芸術文化・観光プロジェクト実習（1年・2年）、舞台芸術実習（2年・3年）
劇場プロデュース実習（2年・3年）、総合芸術文化実習（4年）
- ・（学内）教務委員、キャリアサポートセンター委員
（学外）日本演劇学会企画運営委員、公共ホール指定管理者選定委員会委員 ほか

■専門領域

- ①文化施設における社会包摂に向けた企画・運営の推進、文化資源の活用
- ②住民ニーズ、将来の地域像・必要コスト等を考慮した文化施設の有効活用、活性化の推進
- ③舞台芸術に係る知識・技術の普及・浸透による、地域の文化リーダー、豊かな地域コミュニティの創出

《研究活動》

- 大阪大学文学部および同大学院文学研究科の演劇学専修を修了。（修士（文学））
- ・大学生時代は古典芸能（特に能楽・狂言）の歴史・台本研究を行い、舞台出演も経験。
〈卒業論文〉『狂言における「秘曲」の展開－「釣狐」の主題の変遷を巡って－』
- ・大学卒業後、兵庫県立の劇場に勤務。現場実務の経験をもとに、地域の公立文化施設における舞台芸術創造、特に人材育成事業を通じたコミュニティづくりの可能性について、社会人大学院生として研究。
〈修士論文〉『公立劇団の活動における〈地域〉意識の変容－兵庫県立ピッコロ劇団の活動を通じて－』

《職歴》

- 平成8年7月、現・公益財団法人兵庫県芸術文化協会に入職。昭和53年開館された兵庫県立尼崎青少年創造劇場（ピッコロシアター）において、演劇教育専門員として勤務。令和4年3月退職。

《主な実務経験》

- 鑑賞事業、文化セミナー、市民参加型イベントなど、劇場事業全般。特に、舞台芸術の学びを通じて地域文化を支える人材の育成を目指す「ピッコロ演劇学校」（昭和58年開設）・「ピッコロ舞台技術学校」（平成4年開設）、さらに人材育成事業の集大成として設立された、全国初の県立劇団「兵庫県立ピッコロ劇団」（平成6年旗揚げ）の企画制作を中心に担当。



プロ演奏者とゼミ生とで
コンサートを企画・開催



終演後、出演者全員で記念撮影



ピアノの修理
（調律員）

■アピールポイント

平成21年度文化庁新進芸術家海外研修制度（アートマネジメント分野）特別派遣研修員。西豪州の地方都市パースから世界的に活躍する演劇人を輩出する西豪州立舞台芸術アカデミー（The Western Australian Academy of Performing Arts）で研修。豪州における舞台芸術の創造環境・人材育成について滞在調査。卒業生の動向調査等をもとに、公立による舞台芸術教育のあり方や意義、地域振興との関わりについて研究。

LEE JIYOUNG
准教授 李 知映 jinbangul@stdat.at-hyogo.ac.jp



- キーワード 文化政策学、演劇学、文化資源学
国の文化政策及び各自治体の芸術文化振興、芸術文化とまちづくり、文化施設を取り巻く社会環境、各文化施設のより良い運営

■ 教育研究

1. 担当科目

韓国語（1年）、舞台芸術実践論（2年）、知と表現のデザイン2（2年）、世界の文化政策（2年）、世界を知る（B）（2年）、文化産業論（3年）、文化政策実習（3年）、専門演習（3年）、総合演習（4年予定）

2. 研究

- 1) JSPS科学研究費助成事業（基盤研究(B)（一般））「平成の日本の文化政策と文化政策関連研究の検証」（研究分担）
- 2) JSPS科学研究費助成事業（基盤研究(C)（一般））「東アジアにおける近代劇形成の比較研究」（研究分担）
- 3) JSPS科学研究費助成事業（基盤研究(B)（一般））「芸術文化と観光と地域ケアのリンケージ—総合文化政策によるウェルビーイングの実現」（研究分担）
- 4) JSPS科学研究費助成事業（基盤研究(C)（一般））「インターンシップによる文化観光人材の育成に向けた実践的研究」（研究分担）

3. 著作

- 1) 李知映「舞台芸術の産業化」、単著、松本茂章編『はじまりのアートマネジメント』新訂版、2025年2月、水曜社、202～216頁。
- 2) Jiyoung Lee *The Value and Utilization of Modern Cultural Heritage in Korea* Nobuko Kawashima, Guido Ferilli編 *Cultural Heritage in Japan and Italy: Perspectives for Tourism and Community Development* Springer 2024年4月 p.81～p.97
- 3) 李知映「芸術家の福祉政策－韓国事例を中心に」、単著、小林真理編著『文化政策の展望』、2018年4月、東京大学出版会、136～160頁。
- 4) 李知映「文化政策のパラダイム変化－創作者中心から享受者中心へ－韓国を事例に」、単著、小林真理編著『文化政策の諸相』、2018年3月、東京大学出版会、3～16頁。
- 5) 李知映「植民地朝鮮の演劇と検閲」、単著、小林真理編著『文化政策の思想』、2018年2月、東京大学出版会、19～33頁。
- 6) 李知映「小劇場演劇の真髄を知る9名の演劇人への特別インタビュー」、「32年間の公演年表」、李知映、金世一、沼上純也編著『TINY ALIE IN WONDER YEARS[1983.04-2014.03]小劇場タイニシアリスのゆりかごから』、2015年3月、芸術新聞社

他

■ 地域貢献・社会貢献

- ①平成31年4月～令和3年3月：「武蔵野市の文化を考える市民の会」委員
 - ②令和5年9月～令和6年3月：「京丹後市万博ロードマップ検討会」委員
 - ③令和5年9月～令和7年12月：「京丹後市大阪・関西万博推進協議会」委員
 - ④令和7年3月～令和7年9月：東京都杉並区立杉並芸術会館指定管理者候補者選定委員
 - ⑤日本文化政策学会理事、韓国地域文化学会編集委員
- 他

講師 IHARA RENA
井原 麗奈



02

■キーワード 近代文化史、文化施設の研究、アーツマネジメント
文化施設、文化財調査

■教育 担当科目：アートマネジメント概論（1年）、
劇場プロデュース実習（2・3年）、文化政策実習（3年）、総合芸術文化実習（4年）

■研究の概要

- 1：文化施設、文化財調査：戦前期に設置された公会堂の研究
- 2-1：アーツマネジメント（音楽以外の分野）：伝統芸能、現代美術、文芸系のアーティストと連携したワーク
ショップ、講演会、展覧会などの運営（京都芸術センター、神戸大学、静岡大学などでの実績）
- 2-2：アーツマネジメント（音楽）：「有限責任事業組合アンサンブル・ラロ、ジャパン」の経営。
[事業内容]・音楽公演の演奏請負・個人、団体に対する音楽の演奏指導・演奏家のマネジメント
・コンサートの企画、運営、広告、宣伝、事務代行・文化・芸術に関する調査、研究、人材育成等

■研究事例

主な投稿論文・研究ノート

1. 「植民地期朝鮮の公会堂に対する支配権力の認識についてー都市における設置状況と運営主体を中心にー」2013年/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第6号（P.19-34）
2. 「大阪市中央公会堂貴賓室（特別室）の天井画・壁画の公共性に関する考察」2014年/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第15号（P.16-28）
3. 「戦前期の行幸啓からみる公会堂の公共性」2015年/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第8号（P.79-93）
4. 「公会堂と「社交」ー戦前期における利用者の社会階層を視点としてー」2015年/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第16号（P.24-35）
5. 「公会堂にみる「公」と「私」の境界線」2015年/神戸女学院大学紀要「論集」第62巻第2号（P.41-59）
6. 「京都市岡崎公会堂：文化の中心としての役割について」2016年/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第9号（P.84-97）
7. 「台湾における近代文化の保存と継承ー公会堂を中心としたフィールドワークに基づいて」2017年/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第10号（P.123-131）共著
8. 「旧小樽区「公会堂使用決裁簿」（大正9～13年度）の史的価値について」2018年/日本アートマネジメント学会学会誌「アートマネジメント研究」第17.18合併号（P.24-35）
9. 「日本期の南サハリンの公会堂に関する調査」2020年「静岡大学 地域創造教育研究」創刊号（P.1-10）
10. 「植民地期朝鮮の公会堂における近代的催事の市民の享受の実態について～新義州・木浦・春川の事例を中心に」2022年/芸術文化観光専門職大学紀要「芸術文化観光学研究」創刊号（P.109-121）
11. 「植民地期朝鮮の公会堂における近代的催事の市民の享受の実態について～仁川・釜山・群山の事例を中心に」2023年/「日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第16号（P.7-19）
12. 「植民地期朝鮮の公会堂における近代的催事の市民の享受の実態について～平壤・大邱の事例を中心に」2023年/「芸術文化観光学研究」第2号（P.156-170）
13. 「社会事業」としての「文化政策」ー植民地期朝鮮の施策における公会堂の位置づけー」2025年/日本文化政策学会学会誌「文化政策研究」第18号（P.7-26）

■社会貢献

一社）アートをコアとしたコミュニケーションデザイン大学コンソーシアム理事 2022年度～現在
東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者評価委員会委員 2021年度～現在（東京都生活文化局）

■アピールポイント

- 1：学外文化施設・団体からの依頼（公演評執筆）
・城崎国際アートセンター『結婚式』ご出席・ご欠席・ワークインプログレス：<http://kiac.jp/article/2505/>
・城崎国際アートセンター『ENCORE-Mer.』：<http://kiac.jp/article/2657/>
・演劇最強論-ing『琉球楽劇の創始者 玉城朝薫が紡いだ歌舞』：
https://www.engekisaikyoron.net/epad2024_review001
- 2：学外組織と連携したアーツマネジメント
ピアノ四重奏団アンサンブル・ラロのコンサートツアー（依頼公演：西条、大垣、大船渡、大津、札幌、静岡、東京等）のオーガナイズ、国内外の演奏家のマネジメント。

講師 KONDO NOZOMI
近藤 のぞみ



■キーワード アートマネジメント、文化政策、文化行政
文化施設の運営、事業計画、組織運営、まちづくり、
アウトリーチ事業、ボランティア・市民参加、劇場アクセシビリティ

■教育研究

- ・担当科目：
舞台芸術基礎実習(1年)、芸術文化・観光プロジェクト実習1-4(1-4年)、文化施設運営論(2年)、
世界の文化政策(2年)、舞台芸術実習A-D(2-3年)、総合芸術文化実習(4年)
- ・本学委嘱委員：劇場運営委員会、地域リサーチ&イノベーションセンター

■専門領域

文化会館をはじめとした文化施設の運営や文化事業の企画・運営に「ホール」について探求している。
公共ホールに勤務していた経験を活かして、大学では学外の劇場に受け入れてもらう実習の仕組みづくりや、実
習で行う舞台芸術公演の制作指導、並びに実習棟で行われる学生公演を含んだ制作アドバイスをを行っている。

(1) 関心のあるテーマ

- ・多様な市民にとっての身近な文化施設や文化会館の運営
- ・文化施設での専門職員の雇用および活用、キャリアアップの仕組み
- ・クリエーションの場としての劇場やコンサートホールの在り方
- ・音楽祭や演劇祭などの文化事業による地域づくり
- ・観光客を引き寄せる劇場やコンサートホールのプログラムづくり

(2) 研究事例

- ・臨地実習（学外インターン）に関する研究
- ・地方映画館の存続に関する研究
- ・フランスの文化会館「文化の家」についての研究
- ・フランスの地方都市で行われる国際音楽祭についての研究
- ・県立芸術文化センターの公共性についての調査

(3) 文化事業の実績

- ・コンサート、演劇やダンス等舞台芸術公演や関連ワークショップの企画運営
- ・国際コンクールの運営、国際音楽祭や市民オペラの制作
- ・病院や学校などでのアウトリーチの実施や巡回の仕組みづくり
- ・コンサート運営にかかわる市民ボランティアの育成
- ・街中パレードの実施
- ・ユニバーサル字幕など鑑賞サポートや劇場アクセシビリティに関する取り組み

■地域貢献・社会貢献

RIC PROJECT：夢ホール運営等研修及び人材育成事業（新温泉町）
その他：YB act 会議（養父市）、京丹後市文化芸術のまちづくり推進会議（京丹後市）

■アピールポイント

公共ホール勤務の現場経験を活かしたアドバイスが可能。
また、クラシック音楽、演劇、オペラ、映画、コンクール、市民美術展と幅広く経験している。
本学でも作品を制作する実習や外部公共ホールで行う実習を担当しており、現場での協働を重視している。

講師 TERADA TAKUYA
寺田 卓矢

terada@stdat.at-hyogo.ac.jp



02

■ キーワード アートマネジメント、音楽文化史

■ 教育研究

- ・担当科目： アートキャリア英語（3年）、企業メセナ論（3年）、世界の文化政策（2年）
現代アート論/アートプロジェクト論（3年）、芸術文化・観光プロジェクト実習1-4（1-3年）
劇場プロデュース実習（2年）、総合芸術文化実習（3年）
- ・主な著作：
（共著）
 1. 「「職場の吹奏楽」の誕生と展開」 戸ノ下達也編著『日本の吹奏楽史 1869-2000』青弓社、2013年、pp.92-113
 2. 「浪花節」「股旅もの・任侠歌謡」「玉音放送・降伏文書調印」「連合国軍総司令部」「アニメソング」 戸ノ下達也編著『〈戦後〉の音楽文化』青弓社、2016年、pp.19-21、24-26、39-41、51-53、292-293
 3. 「厚生音楽運動における楽器指導の展開－マンドリン、ハーモニカの観点から」 戸ノ下達也、洋楽文化史研究会編著『展開する厚生音楽－戦争・職場・レクリエーション』（『厚生音楽資料全集－戦時期の音楽文化』別巻）金沢文圃閣、2021年、pp.43-68（※青木学との共著）
- （単著）
 1. 修士論文「Patrons of Music: Making and Development of Professional Orchestra in Modern Japan（音楽のパトロンたち－近現代日本におけるプロフェッショナル・オーケストラの形成と発展－）」立命館大学大学院政策科学研究科、2009年
 2. 事例報告「大学生による「小学生のためのコンサート」の企画と運営－神戸大アートマネジメント研究会の活動報告－」日本アートマネジメント学会『アートマネジメント研究』第14号、2014年、pp.60-68
 3. 博士論文「厚生音楽運動の研究－アジア・太平洋戦争期における音楽文化の一側面－」神戸大学大学院国際文化科学研究科、2015年
 4. 研究ノート「劇場、音楽堂等における身体障がい者への舞台芸術鑑賞支援の現状と課題」立命館大学政策科学会『政策科学』33巻3号、2026年、pp.319-333

・大学運営： 劇場運営委員会

■ 専門領域

- ・音楽文化史： 日本を中心とする近現代の音楽（洋楽）文化史
- ・アートマネジメント： 文化施設の運営、音楽公演の企画制作



子どもと家族のための朗読&オーケストラ演奏会
「ベートーヴェンの想い出」企画制作・脚本執筆
2019年1月、愛知県刈谷市

■ 地域貢献・社会貢献

- ・2023年4月16日「第3回 芦屋国際音楽祭 クロージング・コンサート」曲目解説執筆

■ アピールポイント

2015年4月、公益財団法人兵庫県芸術文化協会 兵庫県立芸術文化センターに入職。総務部にて貸館業務などを担当（2年間）、楽団部（兵庫芸術文化センター管弦楽団）にて公演制作、アウトリーチ事業、総務・経理事務、助成金事務などを担当（9年間）し、2026年3月退職。同年4月、本学に着任。

語学・情報系



語学

傅建良 -----28
姚瑶 -----29

情報

藤本悠 -----30

FU KENRYO
准教授 傅 建良 fu_kenryo@stdat.at-hyogo.ac.jp



03

■キーワード (専門領域) 英語学、語法文法、対照言語学、異文化コミュニケーション、意味論、現在完了形、文法化、動詞意味論、言語景観、観光言語、テキスト分析 など

■教育研究

担当科目：英語 1A・1B、海外語学研修A・B・C・D、専門演習、総合演習、日本文化と地域A・B

著書：『The Present Perfect in English: From Semantic, Evolutionary, and Contrastive Perspectives』(単、2021、開拓社)

英語の現在完了形は、現在と過去の関係を表す複合時制である(Huddleston et al., 2002 など)。古英語に遡ると、“I have my work finished.”のような語順が用いられていた。また、“Einstein has visited Princeton.”は、アインシュタインの存命中に限って適格とする見解がある。さらに、口語では“I seen it.”のような「誤用」も少なくない。このように多くの謎を孕む現在完了形について、本書は意味論、文法化、ならびに対照言語学の視点から、その本質に迫る。

著書：『英語実証研究の最前線』(共、2020、開拓社)

担当：第II部、「構文研究」、第2章「Before節における過去完了形と過去形－出来事の時間的構造の視点から－」

科学研究費助成事業 基盤研究(C)

「演劇祭来訪者の広域観光周遊を促す時限的な言語景観の整備による多文化共生社会の構築」(研究分担者、研究期間2023年4月 - 2027年3月)

主な研究論文・研究ノート (2023～2025年度)

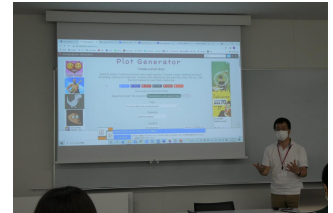
- Fu, K. (2025). A Semiotic Analysis of the Linguistic Landscape of World Heritage Sites: A Case Study of Himeji Castle. *The JASEC Bulletin*, 34(1), 83-90-68.
- Fu, K. (2024). Text Analysis on Toyooka-based Hotel Customers' Online Reviews. *Journal of Arts and Tourism*, 3, 194-200.
- 傅建良 (2024). 「言語によるコミュニケーション－看板英語を事例として」(シンポジウム)『日本英語コミュニケーション学会紀要』, 33(1), 99-102.
- Fu, K. (2023). Linguistic Landscape in an English-Speaking Community: A Case Study of the University District of Seattle. *The JASEC Bulletin*, 32(1), 35-47.

主な国際学会における発表 (2025年)

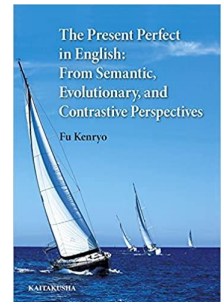
Fu, K. (2025) Verbification of English Brand Names in the Digital Age: A Frame Semantic Analysis of Communication Verbs (The Asian Association for Lexicography 2025 Conference, 口頭発表、上海、2025年9月12日)

本学の運営等の担当

国際交流委員会委員 (英米の協定校など担当)、教務委員会委員



授業風景：英語宿舎2021



開拓者 2021.10 発行



開拓者 2020.9 発行

■社会貢献

日本学術会議協力学術研究団体・日本英語コミュニケーション学会幹事・理事・編集委員など歴任、国内外の学術誌の論文査読者；HYOGOロータリークラブ会員、国際ロータリー2680地区委員会委員歴任；兵庫県高校生英語スピーチコンテスト但馬支部予選 審査員

■アピールポイント

日本英語コミュニケーション学会第15回学術奨励賞受賞 (2023年)

大学英語教育学会会員、日本英語学会会員、英語語法文法学会会員、日本中国語学会会員、関西英語語法文法研究会会員、日本英語コミュニケーション学会会員

YAO YAO
准教授 姚 瑶 yao_yao@stdat.at-hyogo.ac.jp

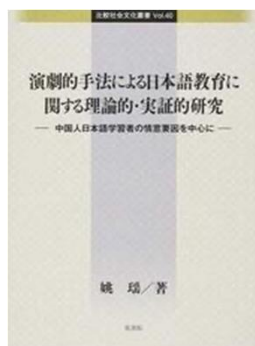


03

■キーワード 中国語教育、日本語教育、応用演劇、多文化共生、異文化コミュニケーション、外国にルーツを持つ子どもの母語・継承語教育支援

■教育研究

- ・担当科目：中国語1・2、日本語A・B、海外実習A、知と表現のデザイン1、多文化社会の社会教育
- ・著書：
 - (1)単著『演劇的手法による日本語教育に関する理論的・実証的研究』（花書院、2017）
 - (2)共著『生命教育視域下小学生心理健康教育教学研究』（廈門大学出版社、2024）
 - (3)共著『日本社会と継承語教育—多文化・多言語環境に育つ子どもたち—』（九州大学出版会、2025）
 - (4)監修『初心者向けの大学教材 中国GO -入門-』（2026）
- ・多文化共生に関する研究：
 - ①外国にルーツを持つ子どもの母語・継承語教育および日本語教育に関する研究
 - ②「生活者としての外国人」の日本語教育支援、地域の日本語教育ボランティアの養成
- ・本学の委嘱委員：入試委員、情報システム連絡会議委員
- ・研究事例



『演劇的手法による日本語教育に関する理論的・実証的研究』（単著）



『日本社会と継承語教育—多文化・多言語環境に育つ子どもたち—』（共著）



『初心者向けの大学教材 中国GO -入門-』（監修）

■地域貢献・社会貢献

RICプロジェクト：

- ・高校コミュニケーションワークショップ

委員：

- ・豊岡市多文化共生推進会議 副会長、豊岡市多様性推進・ジェンダーギャップ対策検討委員会 委員

学会：

- ・国際表現言語学会 （理事）
- ・多文化関係学会 （全国大会コーディネーター、学術委員）
- ・母語・継承語・バイリンガル教育(MHB)学会
- ・中国語教育学会
- ・日本語教育学会
- ・言語文化教育研究学会
- ・日本演劇学会

その他：

- ・劇団14+ 劇団員
- ・(有)パブリックチャンネル 俳優

准教授 FUJIMOTO YU
藤本 悠 yu_fujimoto@stdat.at-hyogo.ac.jp



03

■キーワード 総合情報科学（地理情報・文化情報）

地理情報システム（GIS）、デジタルアーカイブ、地域資源、デジタルアート、データサイエンス、ジオパーク、医療情報、生成AI、量子コンピューター

■教育研究

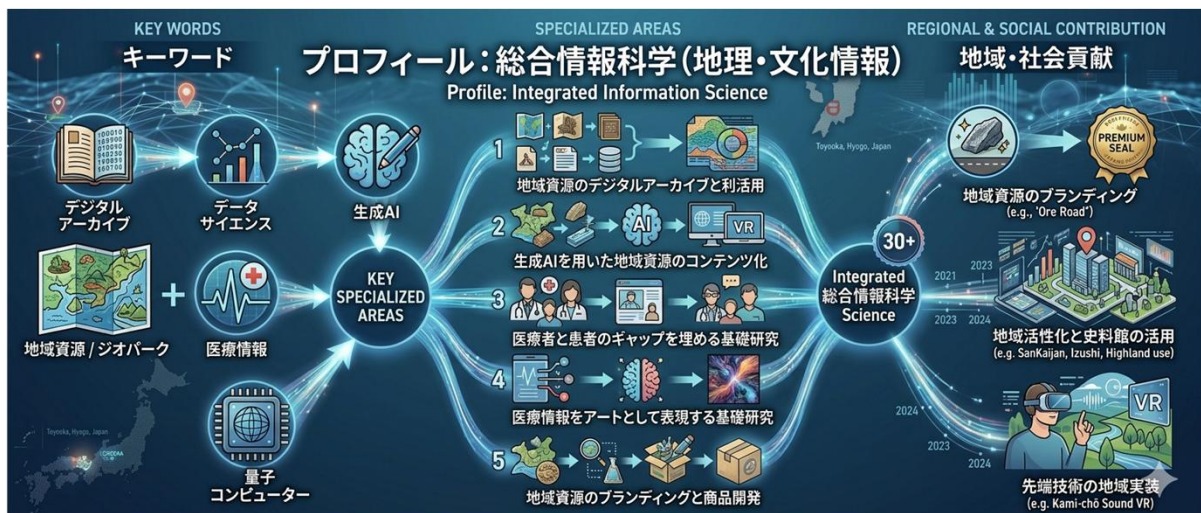
担当科目：情報処理演習、データ分析論、地域情報論、データサイエンス演習
 法人委嘱：兵庫県公立大学法人 総合情報基盤本部 CIO補佐
 本学委嘱：情報システム連絡会議

■専門領域

1. 地域資源のデジタルアーカイブと利活用に関する研究
2. 生成AIを用いた地域資源のコンテンツ化に関する研究
3. 医療者と患者のギャップを埋めるための基礎研究
4. 医療情報をアートとして表現するための基礎研究
5. 地域資源のブランディングと商品開発に関する研究

■地域貢献・社会貢献

1. 「鉱石の道」のブランド化に向けた住民へのヒアリングと提言（2022年～）
2. 出石における歴史史料館等の利用促進に向けた提言（2023～）
3. 山陰海岸ジオパークを活かした地域活性化に関する取り組み（2023年～）
4. 新温泉町における「上山高原」の活用に向けた取り組み（2023年～）
5. 香美町における地域資源を活かした「音のVR」の構築と実装（2024年～）





小熊	英国	-----	32
塩川	太郎	-----	33
高橋	伸佳	-----	34
直井	岳人	-----	35
西崎	伸子	-----	36
島津	太一	-----	37
高橋	加織	-----	38
崔	光雄	-----	39
野津	直樹	-----	40
安藤	竜	-----	41

OGUMA HIDEKUNI
教授 小熊 英国



■キーワード サービスマネジメント 観光学 有人宇宙学

■教育研究

- ・担当科目：マネジメント入門、観光事業概論、観光交通業実習、観光サービスマネジメント論、旅行産業論、旅行事業実習
- ・本学委嘱委員：入試委員会委員長、ビジョン2050推進室室長

・専門領域

1. サービスマネジメント

観光を中心としたサービス業（飲食、宿泊等々）をハーバード経営大学院の研究で有名なSPCモデルや、顧客満足マーケティング等の手法を活用し事業開発・支援

2. 観光学

大手航空会社の海外拠点でジェネラルマネジャーとして従事、世界100ヶ国以上の渡航経験を活かし、外国人の日本誘致、インバウンドを研究

3. 有人宇宙学

宇宙における観光と旅行について京都大学大学院にて研究

事例1 講演

第6回江東区観光協会セミナー開催のお知らせ

これまで世界100ヶ国以上に渡航。
ハイテク・CAの世界から海外ツアー企画の裏面や世界と日本の観光事情を語ります。
「観光立国から観光先進国へ」

日時：平成31年2月15日(金)18:30~20:00
会場：江東区産業会館 第1会議室
(東京外口駅西口徒歩10分)
参加費：無料
講師紹介：
グローバル経営大学院教授
小熊 英国氏 Ph.D. (学術博士)

事例2 コロナ渦のサービス業 セミナー



2020あさって会議NS_小熊英国様

事例3 サービス業のコンサル（社員による課題抽出）



事例4 宇宙に関するフォーラム調査発表

How to get water on the moon?

- ICE exists underground.
- water on the moon surface

NWA 2727と呼ばれる月隕石から「モガナイト」と呼ばれる水が関与してできる鉱物を発見

微小な隕石が衝突する際の衝撃によって、年間最大220トンもの水が放出されている

NASAの探査機LADIEE
2019年4月18日打ち上げの宇宙船「Nature Geoscience」
月の南半球にあるクラゲウス・クレーターを観測した結果、6.1μmの水分子に特有の波長を検出。1m³の土の中に、100~412ppmの水分子が閉じ込められている

平成30年8月3日 (水) 地球科学「Science Advances」
https://www.sciencedata.org/doi/10.1038/s41567-019-0607-8

論文誌「Nature Astronomy」の10月26日発行

事例5 インバウンドツーリズム 海外現地調査

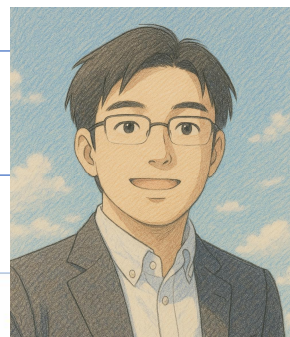


■アピールポイント

経営、観光、サービスホスピタリティの分野において、大企業をはじめ多くの企業、地方自治体等で講演、講義、コンサルティングに携わってきました。企業のアドバイザーボード、学会理事多数兼任。

SHIOKAWA TARO
教授 塩川 太郎 kuwataro@stdat.at-hyogo.ac.jp

■キーワード 観光地理学、歴史学、行動生態学
文化遺産、観光資源、災害文化、自然教育



04

教育研究プロフィール

1 担当科目



観光地理学

観光と地域の関係を
地理的視点から学び、
持続可能な観光を
考えます。



国際防災論

国際的な防災の考え方や
事例を学び、地域の
防災・減災に役立つ
知識を養います。



海外実習

海外でのフィールドワークや
交流を通じて、異文化理解と
実践的な学びを深めます。



2 研究業績

「台湾の日本統治時代に造られた西国三十三所観音霊場
-現状と保存維持・観光資源化への課題-」、『台湾研究』
「1999年台湾921大地震における地震記念碑について」、『歴史地震』
「台湾における災害文化と防災事情」、『海外事情』
「台湾における温泉旅行の志向性(1)-台湾温泉の印象-」、『温泉』・・・等



3 専門領域

1 文化遺産と観光



文化遺産の保存と活用、
宗教文化資源の観光への
展開を研究しています。

2 災害文化と 防災



災害文化の理解と防災教育、
地域の防災力向上に関する
研究を行っています。

3 国際交流

(CAT国際交流センター長)



台湾を中心とした国際交流や
学生の海外学習支援、
連携協定の推進に
取り組んでいます。

4 自然観光資源



自然環境や生物多様性を
活かした観光資源の評価と
活用方法を研究しています。



4 アピールポイント



博士号を2つ取得

文学博士と
農学博士の
2つの博士号を取得しています。



災害研究の専門家

台湾の災害文化や防災教育、
国際防災に関する研究を
専門とし、地域社会の
減災に貢献しています。



子供向け昆虫展

子どもたちに向けた
昆虫標本展や体験イベントを
開催し、自然や命の大切さを
伝えています。



台湾大学での経験

台湾の大学での研究・教員
経験を有しており、国際的な
視点と教育・研究ネットワー
クを活かしています。

TAKAHASHI NOBUYOSHI

教授 高橋 伸佳 n_takahashi@stdat.at-hyogo.ac.jp

n_takahashi@stdat.at-hyogo.ac.jp

■キーワード **地域活性化、地方創生、ウェルビーイング、ヘルスケア、スポーツ**
ヘルスツーリズム、スポーツツーリズム、ユニバーサルツーリズム、
観光衛生マネジメント、医療インバウンド



04

■ 教育研究

・担当科目：観光学概論、エリアマネジメント論、宿泊産業論、ニューツーリズム論、インバウンド・マーケティング論
観光プロモーション演習、宿泊業実習、ホスピタリティ実習、ディステーション実習、専門演習、総合演習

・研究：主に2025年度中に実施したもの

- ・個人研究（原著）「来訪者との交流が過疎地域前期高齢者のウェルビーイングに与える影響の検討—新たなヘルスツーリズムへの応用に向けて—」
- ・科学研究費助成事業基盤研究B「芸術文化と観光と地域ケアのリンケージ —総合文化政策によるウェルビーイングの実現」
- ・科学研究費助成事業基盤研究C「演劇祭来訪者の広域観光周遊を促す時限的な言語環境の整備による多文化共生社会の構築」

＜地域連携事業等＞

- ・豊岡市（2021年～）「豊岡コミュニティ・ツーリズム事業」 ※観光庁「令和5年度観光白書」の持続可能な観光地づくり事例に掲載
・新温泉町（2024年～）「観光・スポーツ振興に向けたフィールドワーク事業」
・兵庫県（2024年～）「ひょうごUTコンシェルジュ育成プログラム」監修（ファシリテーター、講師役兼務）
・朝来市（2025年～）「朝来市ユニバーサルツーリズム推進支援事業」など

〈書籍〉

・一からの観光事業論 第2版 (第13章 観光まちづくり) 碩学舎

・専門領域：健康・スポーツを中心としたまちづくり、サービス業の事業開発、事業再構築、サービス・マーケティング、サービス品質

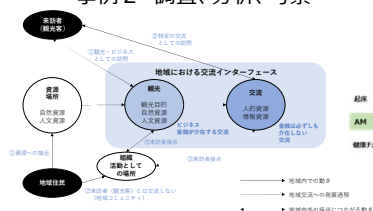
・ゼミでの研究テーマ：エンターテインメント(アイドルなど)による地方創生や聖地巡礼(アニメツーリズム、フィルムロケーション)など芸術文化やエンタメの力を活用した「新しい地域活性化」を研究・考察・応用（2025年度実績：大阪・関西万博 観光PRのステージに2回出演）

・本学委員／学術系外部委員：教務部長（教務委員長）／日本観光経営学会理事、日本ヘルスツーリズム学会理事

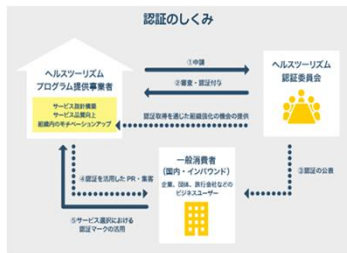
事例 1 セミナー、ワークショップ



事例 2 調査、分析、考察



事例 3 政策・制度設計、審査



事例 4 プログラム・コンテンツ開発



事例5 プロジェクト推進／社会実装



豊岡市コミュニティ・ツーリズム事業
スポーツ庁
Sports in Lifeアワード
Sports in Life2023賞 受賞 (2023)
奨励賞 受賞(2024)

■ アピールポイント（地域貢献・社会貢献）

- ・特定非営利活動法人日本ヘルスツーリズム振興機構（副理事長）、ヘルスツーリズム認証制度審査員（経済産業省制度）
・日本経団連ヘルスケア産業部会「健康投資と企業経営」委員（2006年～2007年）、経済産業省近畿経済産業局「健康文化産業の見える化」委員（2008年）、大阪市「健康予防医療プロジェクト」コーディネーター（2008～2009年）、国土交通省観光庁「ニューツーリズムの顧客満足度調査」委員（2011年）、静岡県「ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー」（2011年～）、内閣府「沖縄独自の医療情報基盤を活用した実践的医療サポート及び医療情報活用産業」委員（2015年）、栃木県「とちぎヘルスケア産業推進懇話会」委員（2016年～2019年）、東京商工会議所「健康づくり・スポーツ振興委員会」委員（2016年～2019年）東京消防庁「救急車適正利用等」の促進に関する有識者会議「委員」（2017年）、経済産業省「医療技術・サービス拠点化促進事業」研究会委員（2017年）、熊本県荒尾市「（仮称）道の駅あらお」委員（2018年～2020年）、都市再生機構「URまちづくり支援専門家」（2019年～）、埼玉県三郷市「三郷市都市型ヘルスツーリズム推進協議会」座長（2019年）、Go Toトラベル「コロナ対策全施設調査に関するアドバイザー」（2020年）、環境省「国立公園満喫プロジェクトにおける自然体験コンテンツのガイドラインに係る作成等業務」検討会委員（2020年）、京都府観光連盟観光アドバイザー（2021年～）、観光庁「地域の観光資源の磨き上げを通じた域内促進に向けた実証事業」専門家（2021年）、養父市「道の駅よか運営者選定委員会」委員（2021年）、地域総合整備財団「地域再生マネージャー事業」推進アドバイザー（2022年～）、観光庁「令和4年度地域独自の観光資源を活用した地域の稼げる看板商品創出事業」専門家（2022年）、スポーツ庁「Sport in Life 公募モデル事業」審査員（2022年～）、豊岡市「ネオカルTOYOOKA推進協議会」会長（2022年～）、朝来市「あさご芸術の森多々良木交流館指定管理者選定委員会」委員長（2022年）、豊岡市「道の駅「神鍋高原」最適化整備運営計画策定委員会」委員長（2022年～2023年）、第3次朝来市観光基本計画策定業務プロポーザル審査員、第3次朝来市観光基本計画検討会委員（ともに2023年）、新温泉町スポーツ推進計画策定委員会アドバイザー（2023年～）、豊岡市総合健康ゾーン健康増進施設第2期運営事業者選定委員会委員（2024年）、養父市健康づくり推進協議会委員長（2023年～）、兵庫県立日高高等学校学校評議員（2025年～）など、職選を通じた研究の社会実装や活動支援に取り組んでいる。

NISHIZAKI NOBUKO
教授 西崎 伸子 nishizaki@stdat.at-hyogo.ac.jp



- キーワード 学問分野：アフリカ地域研究、生態人類学、環境社会学
東アフリカ、エチオピア、野生動物保全、民族文化観光、
再生可能エネルギー開発、自然資源の持続的利用、住民参加、
ジェンダー、女性の自立

■ 担当授業

- ・国際環境論、社会学、社会調査演習 1・2、ニューツーリズム論、知と表現のデザイン 2・専門演習・総合演習
- ・学内業務
- ・副学部長（2025年4月～）

■ 研究領域

現在取り組んでいる研究課題（海外）

- （1）東アフリカ農牧社会のエネルギー選択：世帯レベルでの実証分析と地域間比較：再生可能エネルギー率100%のエチオピアで、人びとのエネルギーの利用方法についてフィールドワークをおこなっています。
- （2）エネルギーの人類学：アフリカの再エネ開発が地域社会に与える影響に関する比較研究：再生可能エネルギー開発と地域社会の関係について、エチオピアで調査をおこなっています。
- （3）ポスト「ローカル・コミュニティ」時代の自然・文化保護事業とアフリカ少数民族社会：観光開発の進展にともなう地域社会の変動から、コミュニティ概念の問い直しを試みています。
- （4）グローバルサウスの観光とジェンダー：ゲストとの新たな出会いとエンパワメント：家父長制度と観光業への女性の参入について、東アフリカで調査をおこなっています。



左上：民族文化観光（エチオピア）



右上：野生動物観光（タンザニア）



左下：農牧社会の暮らし（エチオピア）



右下：飲食をともにしながらの調査（エチオピア）

* 写真撮影はいずれも西崎による

■ アピールポイント

- ・地域社会をしるために、**現場をあるき、みて、感じ、考えるための技法**（社会調査法）を教えています。
- ・環境保全と社会の関係について幅広く調査しています。日本では、**食文化に関する在来の技術の継承**について調査や実践活動をおこなっています。

SHIMAZU TAICHI
准教授 島津 太一 t.shimzu@stdat.at-hyogo.ac.jp



04

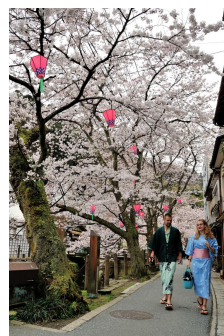
■キーワード 観光地の経営（デスティネーションマネジメント）
DMOの形成・運営支援、観光DX事業、観光データ分析、観光マーケティング、インバウンド戦略、航空ネットワークと観光流動、アンシェラリービジネス、人事・賃金制度設計

■教育研究

- ・担当科目：芸術文化・観光プロジェクト実習（1～4年）
デスティネーションマネジメント論（2年）
ディスティネーション実習（3年）、観光プロジェクト立案演習（3年）、観光情報演習（3年）
専門演習（3年）
総合演習（4年予定）
- ・研究・著作：観光DX推進による来訪者予測の影響と寄与度に関する研究～観光地における飲食店と物産（土産）店における統計的有意性の検証～（単著、観光情報学会）
地域主導による観光DX制度の実装・推進と運用過程に関する研究～宿泊施設のデータ共有とDMOの調整機能の検証～（単著、観光情報学会）

■専門領域

1. 観光地経営（デスティネーションマネジメント）に関する研究
 - 1) DMOの運営支援および公民連携の仕組みづくり
 - 2) 観光DX事業展開および観光データ分析による意思決定支援
 - 3) 観光マーケティングおよびインバウンド戦略の立案
2. 航空×観光に関する研究
 - 1) 航空ネットワークと観光流動の分析・需要予測
 - 2) 付帯事業（アンシェラリー）を活用した収益構造の高度化
 - 3) 観光地における付加価値創出・収益多角化の設計
3. 人事賃金制度に関する研究
DMO等の観光組織における人材マネジメントおよび労働生産性向上のための人事・賃金制度設計



オフ期対策のインバウンド誘客の一例

■地域貢献・社会貢献

- ・専修学校による地域産業中核的人材養成事業 委員 2023年
- ・豊岡演劇祭実行委員会 委員 2023年～2025年
- ・山陰海岸ジオパーク推進協議会 委員 2023年～2026年
- ・北近畿タンゴ鉄道生活交通改善事業計画に関する協議会 委員 2023年～2026年
- ・城崎温泉観光協会 理事 2025年
- ・豊岡市観光地経営のあり方検討委員会 委員 2023年～2024年
- ・豊岡市観光自主財源検討委員会 委員 2025年～2026年
- ・一般社団法人豊岡観光イノベーション（DMO） 理事兼事業本部長 2023年～2026年

■アピールポイント

航空会社にて35年間の実務経験を基盤に、観光地経営を「マーケティング」、「交通（航空ネットワーク）」、「収益構造」、「人材戦略（人事・賃金制度）」の観点から統合的に分析・設計することができます。
観光DX事業やデータ分析を活用し、DMOや地域における実践的な意思決定支援・制度設計に取り組んでいます。

TAKAHASHI KAORI
 講師 高橋 加織 kaori_takahashi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード ジェンダー研究、観光業における労働問題
 女性やマイノリティの職場環境及び生活環境の改善、インターンシップの構築
 及び支援

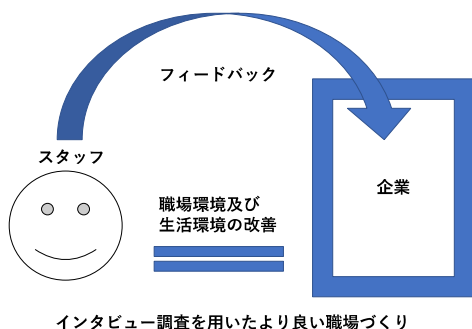
04

■ 教育研究

- ・担当科目：観光資源実習（1年）、宿泊産業論、宿泊業実習1・2、旅行業実習1、ホスピタリティ実習、海外実習A（2年）、旅行業実習2（3年）
- ・本学委嘱委員：学生生活委員会、実習支援センター
- ・研究：
 1. ジェンダー研究：職場環境の改善
 - (1) 宿泊業における職場・生活環境の改善：インタビュー調査を行い、働く人たち（特に、女性、外国籍、障がい者など）の抱えている問題を明らかにすることで、職場の環境および生活環境の改善に貢献できる。宿泊業で働く人は、女性、外国籍の方、子育て中の方も多いため予想される。近隣の親類縁者などのサポートがなくても子育てと就労を両立し、生活しやすい環境の整備や支援をおこなう。
 2. 観光研究：宿泊業支援、インターンシップの構築および支援
 - (1) 宿泊業のイベントや講習会（小中学生向け、地域住民向けなど）を企画できる。
 - (2) 国内外の企業や教育機関と宿泊業におけるインターンシップの提案。
- ・運営等の担当
 観光業界を目指す若者向けセミナー（高校生対象）実施事業

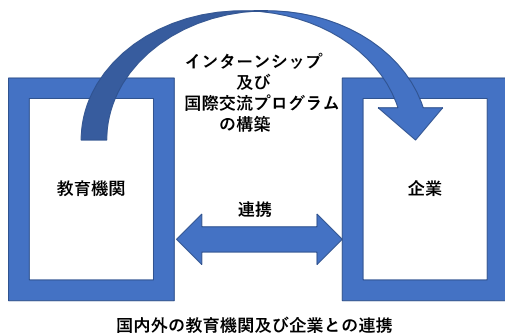
■ 専門領域

事例1. インタビュー調査を用いた職場および生活環境の改善



* インタビュー調査の結果を分析し、企業へフィードバックすることにより、職場環境及び生活環境を改善し、より良い職場づくりを目指します。

事例2. インターンシップの構築及び支援



* 国内外の教育機関及び企業の架け橋となるインターンシップ及び国際交流プログラムの構築を支援します。言語、文化、宗教、習慣などの異なる方々と交流することにより、企業、教育機関及び地域の多文化共生を実現します。

■ アピールポイント

ホテル業において国内外要人接遇を多数経験。

CHE KWANGWOONG
講師 崔 光雄 kwchoi@stdat.at-hyogo.ac.jp



04

■ キーワード 観光まちづくり、持続可能な観光、観光経済、観光経営

「観光まちづくり」や「持続可能な観光」の実現に対して「観光経済」や「観光経営」のアプローチで対応することを心がけています。芸術文化観光を通じた地方創生や地域活性化に関する研究テーマや事業に幅広く関心があります。

■ 教育研究

・担当科目

観光学概論（1年）、観光プロモーション演習（3年）、芸術文化・観光プロジェクト実習（1～3年）
デスティネーション実習（3年）、地域創生論（2年）、観光まちづくり論（1年）

・研究・著作

崔光雄(2025)「地域ウエルネスツーリズム資源発掘研究」『日本近代学研究』No87, 221-245
崔光雄, 徐錦健(2021)「島嶼観光地の価値評価に関する研究」『Northeast Asia Tourism Research』vol.17(3), P.197-P.225
Kwang-Woong CHOI, Jung-Woong KANG, Ji-Won KIM, Mincheol KIM(2021)「Compromise between Small Data and Big Data(韓国語)」『Journal of Tourism & Industry Research』vol. 41(2), P.21-P.31
Mona Chang, Kwang-Woong Choi, Mincheol Kim(2020)「On Factors Affecting Tourism Capacity (Overtourism): Using Logit Analysis(韓国語)」『Journal of Tourism & Industry Research』vol. 40(2), P.15-P.23
Mincheol KIM, Kwang-Woong CHOI, Mona CHANG, Chang-Hun LEE(2020)「Overtourism in Jeju Island: The Influencing Factors and Mediating Role of Quality of Life」『Journal of Asian Finance, Economics and Business』vol.7(5), P.145-P.154
Choi, Kwang-Woong, Suh, Yong-kun(2019)「A Comparative study on Tourist Attractions according to Ownership Types Using Stakeholder Theory」『Journal of Tourism & Leisure Research』vol. 31(8), P.175-P.193
Kwang-Woong Choi, Mincheol Kim, Mona Chang, Bon-Jun Koo (2019)「Evaluation on Overtourism in Jeju Island(韓国語)」『Journal of Tourism & Industry Research』vol. 39(2), P.29-P.36
Choi, Kwang-Woong, Suh, Yong-kun (2019)「Measuring sustainable tourism - Focused on Jeju Island - (韓国語)」『Journal of Regional Studies』vol.27 (1) P.107-P.121
Mincheol Kim, Kwang-Woong Choi (2019)「On Visitors' Recognitions of Yearly Breaks of Jeju Oreum(韓国語)」『Journal of Tourism & Industry Research』vol. 39(1), P.37-P.44

■ 専門領域

2026年現在RIC事業として以下の研究事業を遂行中です。
「城崎国際アートセンターの多面的な価値と役割（仮題）」

以下、今まで国や地方自治体の事業に研究者として参加した際のテーマを参考までに掲載します。

「離島の全般的交通体系の改善事業」

「離島文化の観光資源化事業」

「済州島観光教育総合計画策定事業」

「済州島ウエルネスツーリズム（ヘルスツーリズム）資源の調査および評価事業」

「済州産ヒラメの観光商品化事業」

「済州オルム（小火山体）休眠年推進状況の評価および改善事業」

■ アピールポイント

芸術文化観光を通じた地方創生や地域活性化に関する研究テーマや事業に幅広く関心があり、研究者の立場からの事業参加、講演、各種委員会など、色んな形で地域と関わっていきたいと考えております。
「芸術」、「文化」、および「観光」に関するテーマであれば特に制限を設けず、積極的に対応したいと思います。

講師 NOZU NAOKI
野津 直樹 nozu@stdat.at-hyogo.ac.jp



■キーワード 観光情報、交通ビッグデータ、芸術文化観光学、豊岡演劇祭

国内観光・インバウンド観光のデータ分析による観光資源の潜在需要の調査、観光客の公共交通を活用した地域内周遊を促進する情報整備手法の検討

■教育研究

担当科目 : 情報処理演習2、観光交通論、観光情報演習、芸術文化・観光プロジェクト実習1～4
主要研究 : 野津直樹 (2016)「ビッグデータによる観光動態分析」、『人工知能』31(6)、pp.850-857
野津直樹 他 (2017)「交通ビッグデータを活用したまちづくり」、『新都市』71、pp.40-46

■地域貢献・社会貢献

R8年度 : 兵庫県 余部鉄橋保存・活用検討会委員
R7～R8年度 : 兵庫県 コウトリ但馬空港のあり方懇話会 特別構成員
R7年度 : RIC 空飛ぶクルマの導入に伴う社会インパクトの検討に関わるアドバイザー業務担当
R7年度 : RIC 新温泉町交通政策検討事業担当
R7年度 : RIC 但馬の公共交通活性化研修協力事業 担当
R6年度 : RIC ひょうごフィールドパビリオン地域内連携の強化と情報発信事業担当
R6年度 : RIC 新温泉町民バス政策検討事業担当
R4～R6年度 : 豊岡高等学校「探究Ⅰ」地域課題研究講師
R4年度 : 八鹿高等学校 高大接続改革推進事業 出張講義講師
R4年度～ : 日本国際観光映像祭 審査員 (国際部門)
R4年度～ : 新温泉町 交通政策研究会アドバイザー
R4年度 : 兵庫県 新観光戦略推進会議専門委員
R3年度 : 兵庫県 新全県ビジョン検討委員会委員
R2年度～ : 豊岡演劇祭実行委員会 モビリティディレクター



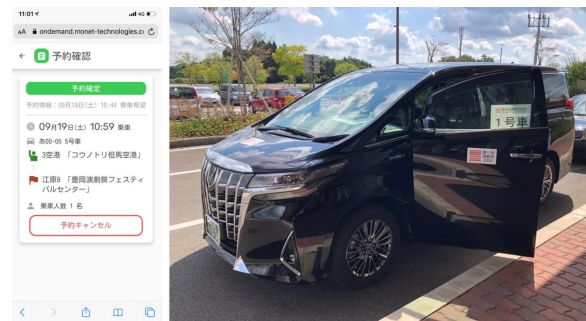
▲豊岡演劇祭2022会期中に配布した「公共交通早見時刻表」



▲電動キックボード実証実験 (城崎温泉にて)



▲R7年度 RIC「但馬の公共交通活性化研修」の様子



▲豊岡演劇祭2020におけるオンデマンド交通実証実験

■アピールポイント

【受賞】第12回観光情報学会全国大会(2015)、第13回観光情報学会全国大会(2016) 大会優秀賞
【資格】旅客自動車運送事業運行管理者、国内旅行業務取扱管理者、応用情報技術者、専門統計調査士、社会調査士 他

助教 ANDOH RYOH
安藤 竜

r-ando@stdat.at-hyogo.ac.jp



04

■キーワード

歴史学、日本近世史、地域史、歴史資源を活用したツーリズム

■教育研究

- ・担当科目：芸術文化・観光プロジェクト実習 1・2・3・4、旅行業実習 1・2、宿泊業実習 1・2、ホスピタリティ実習、観光交通業実習 1・2、地域とつながる歴史学
- ・研究：「能登奥郡における加賀藩の地域編成と村落－能登国鳳至郡東山村を事例に－」
（『加賀藩研究』第12号、2022年）
「加賀藩領における鉄砲改と狩猟・鳥獣害」
（『かなざわ食マネジメント専門職大学紀要』創刊号、2023年）
「但馬国出石藩領における芸能興行」（『芸術文化観光学研究』第4号、2025年）

■専門領域

1. 日本近世の地域史。
とくに加賀藩領（能登・加賀・越中）の山間地域を素材に、藩による地域支配の仕組みと、村落社会に生きた人々のあり方を追究してきました。
本学着任後は、但馬国出石藩を対象として、将軍家に献上された産物（鮎・鮭・朝倉山椒など）の研究などに取り組み始めています。
2. 芸術文化と観光
本学着任後、出石藩や豊岡藩を対象に、但馬国における芝居や相撲などの芸能興行の研究に取り組んでいるほか、地域に残された旅日記の解読を進めています。
3. 歴史資源を活用したアート・ツアーの造成
金沢では、歴史学の研究成果を活かしたインスタレーションやツアーの造成にも取り組んできました。

■地域貢献・社会貢献

2025年

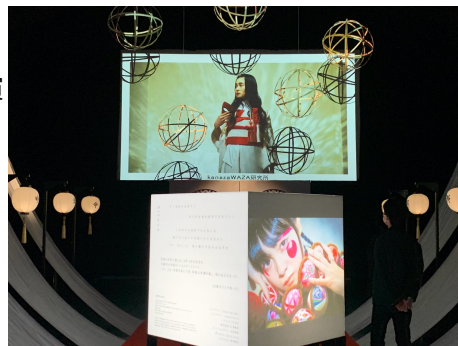
- ・豊岡市文化協会
豊岡市政20周年記念事業豊岡市文化協会特別文化講演
「但馬国出石藩領における芸能興行について」
- ・金沢市尾張町商店街 歴史と伝統文化講演会
- ・富山市民学習センター 富山市民大学「食と住の文化史」

2024年

- ・金沢市尾張町商店街 歴史と伝統文化講演会
- ・富山市民学習センター 富山市民大学「食と住の文化史」

2023年以前

- ・金沢21世紀工芸祭2023「工芸×金沢の怪談・奇譚ツアー」ツアー造成・講師
- ・インスタレーションアート展「珠姫の物語～過去へ進む 未来へ戻る～」企画・調査・キャプション など



■アピールポイント

地域の人々からも忘れられてしまった地域の歴史を古文書から読み解き、得られた知見を新しいコンテンツの創造につなげることで、地域をもっと面白くする、そんな活動を但馬でも進めていきたいと思っています。



荒木	利雄	-----	44
小畑	克典	-----	45
瓶内	栄作	-----	46
富樫	佳織	-----	47
夏	世明	-----	48
小島	寛大	-----	49

教授 ARAKI TOSHIO
荒木 利雄 arakit@stdat.at-hyogo.ac.jp



■キーワード

アントレプレナーシップ教育、事業創造、地域経済・地域社会の活性化、経営学からの価値創造、ファミリービジネス、地方大学経営

05

■教育研究

- ・担当科目：アントレプレナーシップ論、地域イノベーション論、事業創造入門、創造性開発演習、地域連携実習
- ・大学運営実績：キャリアサポートセンター長（2025年4月～）

■研究・教育などの実績(2022年以降)

(論文)

- 荒木利雄(2022)「ソーシャルビジネスを展開するスタートアップ企業経営戦略－中小企業と大学との連携・協働によるSDL価値共創プロセス」『CIPFA Japan ジャーナル』（英国勅許公共財務会計協会日本支部）第6号，pp.3-14.
- 荒木利雄(2024)「地域中小企業における持続的経営のための人材育成エコシステムモデルの構築に向けて－アスカカンパニー株式会社と株式会社アスカコネクの起業事例を通して」『福山大学経済学論集』第48巻，pp.116-133.
- 松尾亮爾・荒木利雄(2024)「公共に関する諸概念と価値創造ロジックの統合的考察－包括的政策形成システムの提起－」『ビジネス&アカウンティングレビュー』（関西学院大学経営戦略研究会）34号，pp.1-21.
- 荒木利雄・松尾亮爾(2025)「地域イノベーション・エコシステム形成の概念整理と今後の研究課題－TSMCの事例を通して」『ビジネス&アカウンティングレビュー』（関西学院大学経営戦略研究会）36号，pp.13-34.

(著書)

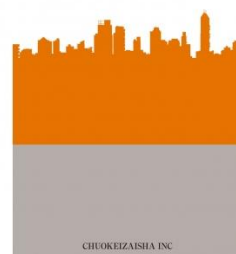
- Toshihiko Ishihara(ed.)(2025)『Value Research in Management Studies』
分担執筆：担当範囲Part 2 – Chapter 10 Value Co-creation by Regional University and Regional Venture Company: Perspective of Solving Social Issues, CHUOKEIZAISHA INC.

(翻訳)

- 石原俊彦・松尾亮爾監訳(2023)『パブリック・サービス・ロジック』関西学院大学出版会，
原著名：Stephen P. Osborne (2021), Public Service Logic: Creating value for public service users, citizens, and society through public service delivery, Routledge.
荒木は第2章「サービス・マネジメントとマーケティングの基礎」を担当。

Value Research in
Management Studies

edited by Toshihiko Ishihara



■地域貢献・社会貢献

(2024年度実績)

- ・広島県立尾道商業高等学校 学校運営協議会，委員

Toshihiko Ishihara(ed.)(2025)
『Value Research in Management
Studies』2025年3月，
CHUOKEIZAISHA INC.(共著)

■アピールポイント

2025年4月に本学に着任しました。アントレプレナーシップ教育による人材育成や、社会課題解決のためのソーシャルビジネス、ファミリービジネスなどの研究をしています。この但馬地域で地域活性化に向けて、様々な形で積極的に貢献したいと思っています。

OBATA KATSUNORI

准教授 小畑 克典 k_obata@stdat.at-hyogo.ac.jp



05

■ キーワード 金融・ファイナンス、会計、グローバル経営、演劇と観光、多文化マネジメント、プロジェクト・マネジメント

■ 教育研究・専門領域

＜担当科目＞

会計ファイナンス入門、ビジネスアカウンティング論、グローバルリーダー入門、海外語学研修、地域イノベーション実習、芸術文化観光プロジェクト実習、パフォーマンスキャリア英語、専門演習、総合演習

＜本学委嘱委員＞

学生部長、自己評価委員会委員

＜関心領域＞

1. 多文化マネジメント、グローバル経営
多様な文化バックグラウンドを持つメンバーが集まるチームでのマネジメントのあり方、リーダーシップのあり方
2. 芸術文化と観光・地域経営
演劇と観光、演劇・芸術祭の社会的・経済的効果の定量分析と地域インパクト、舞台芸術の産業構造とファイナンス手法
3. 金融・ファイナンス
コーポレート・ファイナンス、財務マネジメント、金融教育
4. プロジェクト・マネジメント
システム開発に限らず、新規事業、新商品開発、各種イベント等々、様々な「プロジェクト」の計画・実行に際しての、体制構築、リソース管理、進捗管理、効果測定、危機対応等。

演劇と観光

〔著〕マーガレット・ウエグリー 〔訳〕小畑克典
〔図解〕平田オリザ



近代娯楽文化の
生態系と舞台芸術
Theatre & Tourism by Margaret Wooley
福村出版

■ 地域貢献・社会貢献

＜RIC事業＞

- ・ひょうご観光本部 観光・まちづくりセミナー
- ・北但大震災100年イベントにかかる城崎街歩き・演劇公演事業
- ・養父市「若者ミライ会議」
- ・新温泉町諸寄地区の観光まちづくりプロジェクト

■ アピールポイント

18年の海外経験を持ち、20の国籍からなる200人のチームを率いていました。金融機関での実務経験と、事業の財務、定量・定性分析や企業内ダイナミクス、金融事情に通じ、特に欧州ビジネス・生活事情について経験豊富です。また、英国演劇（エディンバラ演劇祭やロンドンのウェストエンド、オフ・ウェストエンドでの上演）についても豊富な知見を持ち、芸術文化と観光・経営の架橋に問題意識を持って取り組んでいます。

准教授 KAMEUCHI EISAKU
瓶内 栄作 e-kameuchi@stdat.at-hyogo.ac.jp



■キーワード 中小企業、事業承継、経営革新、第二創業
経営診断（中小企業診断士）

■教育研究

- ・担当科目：事業創造入門、知と表現のデザイン2、地域創生実習、地域イノベーション実習、地域連携実習、専門演習、総合演習
- ・研究：(2025)「中小企業のマネジメント・コントロール―ESGを活用した探索的活動と組織開発―」日本中小企業学会論集,44号,pp. 74-87.
(2025)「財務的側面での事業承継パフォーマンス評価に関する 探索的研究」中小企業季報,2024 No.4,pp. 1-11.

・本学委嘱委員：実習支援センター委員長

・専門領域

1.事業承継

事業承継環境に関する調査研究、親族承継時における、後継者のキャリアを活用した第二創業の実現、公的支援機関でのアドバイザー経験を生かした個社に対する助言、環境変化に対応した、複数選択肢の事業承継計画の策定

2.中小企業経営、中小企業診断・支援

経営革新等支援機関の経験を生かした、事業計画の策定、中小企業政策の変遷と、政策が対象とする企業類型に対する研究

3.新規事業創出

既存経営資源を活用した第二創業の実現、事業再構築の方策検討



図1 2025.9.30
養父市 お仕事体験ワークショップ
(有限会社オグラ)



図2 2026.3.16
但馬県民局主催
スタートアップ・ビジネススクエア2026



図3 東浦ターミナルパーク
活性化協議会 座長



図4 但馬広域行政事務
組合職員研修

■地域貢献・社会貢献

兵庫県中小企業家同友会 NT委員（景況調査レポート）、全国市町村自治研修所「自治体の中小企業支援」講師、豊岡市公営企業審議会委員、南但ごみ処理施設整備指針策定審議会 委員

■アピールポイント

日本中小企業学会幹事、（一社）兵庫県中小企業診断士協合理事、兵庫県中小企業団体中央会コーディネーター、（一社）豊岡コミュニティシネマ監事、東浦ターミナルパーク活性化協議会座長

TOGASHI KAORI
准教授 富樫 佳織 kaori.togashi@stdat.at-hyogo.ac.jp



05

■キーワード 経営戦略、イノベーション、ビジネスモデル、人間中心設計
CIME(Communication, Information, Media, Entertainment)業界の
デジタル化に関するビジネスモデル革新。プラットフォーム戦略。デジタルビジネス。
デジタルサービス創造における人間中心設計(HCD)、デザイン思考の実践的検証。

■教育研究

・担当科目：マネジメント入門（1年） 事業創造入門（2年）
組織マネジメント論（3年） リスクマネジメント論（3年）
地域イノベーション実習（3年） 地域連携実習（4年） 地域創生実習（2年）

■専門領域

経営戦略、イノベーション、ビジネスモデル、人間中心設計

■主な論文や活動

1. 既存産業のデジタル化における新規プラットフォーム企業とのコーペティション戦略
 - 1) プラットフォームビジネスにおけるコーペティションの緊張マネジメントーYahoo!ニュースの事例ー組織科学 59(2) pp.61-76. 2025年12月
 - 2) ラジオ業界のコーペティション型ビジネスモデル・イノベーションーradikoの事例ービジネスモデル学会誌 BMAジャーナル 24(1) pp.32-47. 2024年7月
 - 3) 新たなビジネスモデルの参入に対する既存企業の対応戦略：放送局と動画配信プラットフォームの事例組織科学 57(3) PP.18-32. 2024年3月
2. 人間中心設計専門家
大学の教育指導における人間中心設計やデザイン思考の実践。企業に対するUX設計アドバイザー 等。

■書籍

- 1) ビジネスフレームワークの教科書 アイデア創出・市場分析・企画提案・改善の手法55
（共著）安岡寛道・富樫佳織・伊藤智久・小片隆久. SBクリエイティブ. 2024年2月
- 2) 文系学生のための企業研究
中央経済社. 2021年5月
- 3) この一冊で全部わかるビジネスモデル 基本・成功パターン・作り方が一気に学べる
（共著）根来龍之・富樫佳織・足代訓史. SBクリエイティブ. 2020年11月
- 4) やわらかロジカルな話し方
クロス・メディア・パブリッシング（インプレス）. 2017年

■アピールポイント

インターネットの普及によってもたらされた既存産業の破壊と、デジタル企業によるビジネスモデル創造に強い関心を持ち、既存企業と新規参入企業とが競争と同時に協調する「コーペティション」という概念を10年に渡り研究しています。企業が新たなビジネスモデルを通じて、反する競争戦略を同時に行うという現象に興味を尽きず、今後も理論発展に貢献する研究を続けたいと考えています。教育活動では、デジタルサービス創出において欧米を中心に注目されてきたHCDやデザイン思考を取り入れたビジネス構想に取り組んでいます。

助教 XIA SHIMING
夏 世明

xia@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード

組織マネジメント、社会調査、統計解析、外国語教育とAI

■ 教育研究

・担当科目：

【現担当】 ジェンダー論、創造性開発演習、デスティネーション実習、観光交通業実習、地域イノベーション実習

【担当経験有】 統計解析、社会調査技法、経営組織調査法、男性学入門、組織・経営学基礎、研究基礎、英語リーディング、中国の言語と文化、日本語文法

・研究・著作：

1. Relationship Quality Among Co-Workers :The Role of Commitment and Trust in China. *European Journal of International Management*. 23(1). 31-59, 2024.
2. Utilisation des connaissances en anglais dans l'enseignement des langues étrangères au niveau débutant : Un exemple dans les cours de chinois. *Revue japonaise de didactique du français*, Vol.19.274-277, 2025.
3. Assessing L2 Japanese Speaking in Role-play Tasks on an Online Meeting Platform. *Digital Applied Linguistics*,4,1-30, 2026.
4. 複言語・複文化能力を有する教師のLOTE授業は学習者に何をもたらすか ―英語知識を活用した授業実践からの一考察―、『複言語・多言語教育研究』13,108-127,2026.

・学内委嘱委員：教務委員会

■ 専門領域

1. 組織マネジメント（実証研究）
2. 高度専門職キャリア形成
3. ジェンダー
4. 外国語教育とAI

■ 地域貢献・社会貢献

1. 外国人女性の会パルヨン（外国人女性住民支援）
2. 豊岡市役所・ワークイノベーション推進協議会（RIC事業）
3. 日本ジェンダー学会誌やDigital Applied Linguisticsなどの査読

■ アピールポイント

質問紙調査設計および分析を長年担当しています。

英国、中国大陸、台湾などの大学および自治体と協力体制を構築し、共同研究およびイベント共催などを担当した経験有り。

KOJIMA HIROTOMO

助教 小島 寛大

kojima@stdat.at-hyogo.ac.jp



■ キーワード アートマネジメント、芸術教育、ワークショップ
 芸術・文化事業の評価、文化政策

■ 担当科目

知と表現のデザイン（1年）、芸術文化観光プロジェクト実習（1～4年）
地域創生実習（2年）、地域イノベーション実習（3年）、地域連携実習（4年）

■ 専門領域、研究

1. アートマネジメント

芸術文化の価値を地域や社会に届けるため、コンサート、演劇、展覧会、ワークショップなど様々な文化事業の企画・運営や評価などを行います。主に教育や福祉と連携するプログラムに取り組んでいます。

2. こどものためのアートプログラムの運営

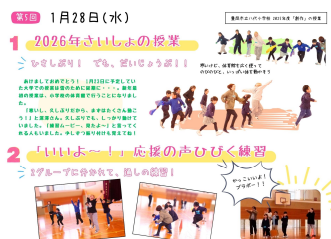
アーティスト、文化施設、学校、地域団体などが連携した、こどものためのアートプログラムを企画します。ワークショップなどの記録や評価を通じて、こどもの芸術文化体験を地域で支える活動を研究しています。



コミュニティ・ミュージック・ワークショップ



親子並行・体験共有型プログラム



ドキュメンテーションによるプロセスの共有

■ 地域貢献・社会貢献など

芸術文化観光専門職大学 地域連携プロジェクト（2025年度）

- 豊岡市立八代小学校における連続ワークショップ プログラム評価（豊岡市教育委員会）
- 発達特性のある子どものためのダンスワークショップと保護者のための子育て応援講座（豊岡市社会福祉課）
- あさご芸術の森美術館における「子どものためのアートプログラム」企画支援（朝来市）

その他

- 公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団 ロームシアター京都 運営懇談会 委員
- 公益財団法人京都市芸術文化協会「文化芸術特別授業（ようこそアーティスト）」コーディネーター

■ アピールポイント

アートマネージャーとしての実務経験

アート系NPOや公立の文化センターや劇場などに15年以上勤務し、行政、学校、福祉施設等と連携し様々な分野の公演やワークショップを運営した経験があります。

日本評価学会認定評価士

評価を通して事業や組織の持続的な運営を支援し、中長期的な視点で現場に伴走します。

◆ お問い合わせ・産学連携申し込み

芸術文化観光専門職大学

・地域リサーチ&イノベーションセンター（RIC）・地域協働課

所在地

〒668-0044 兵庫県豊岡市山王町7-52

電話

0796-34-8123（代表）、34-8162（RICダイヤルイン）

ウェブサイト

<https://www.at-hyogo.jp/>

E mail

cat-hyogo@ofc.u-hyogo.ac.jp

発行責任者	小橋 浩一
担 当	幸木 孝雄
発行日	2026年6月1日



芸術文化観光専門職大学
Professional College of Arts and Tourism